

Jazz Today®

Monthly Free Magazine

2007.02 No.34



TOSHIHIKO INOUE fuse
Don Friedman

TAKEHIRO HONDA

DAVID MURRAY
MINAKO YOSHIDA
MAKOTO NAKAMURA



<http://www.jazztoday.jp/>

TOSHIHIKO INOUE fuse



名は体を表す

text by 松本伊織

私の父は、このバンドの名付け親であった。浜松で定期的にジャズ・コンサートを主催していた父は、20年親交を温めてきた井上淑彦の復帰コンサートを『fuse』と題した。そのときのバンドがそのまま fuse となったことは、あちこちで書かれている通りだ。

2000年夏、天竜川が横切る浜松北部の町、鹿島の河川敷で、毎年恒例の花火大会が行なわれていた。私たち家族3人と井上氏は、その河川敷に横たわって打ち上げ花火を見ていた。片田舎の山間の

花火もまた趣がある、ということを私たちは初めて知った。すぐ近くに迫る山に、花火の破裂音がこだまする。そんなのどかな雰囲気の中、花火を見上げていた我々の胸中は複雑だった。末期癌に侵されていた父は、来年ここに居ることはないだろうと。ただ、花火を見ていた瞬間は、無心になれたのは間違いない。

それから1ヵ月が過ぎ、我々一家は横浜ドルフィーでの fuse のライブに足を運んだ。そこで披露されたのが、〈Fireworks〉という曲である。井上氏がどんな気持ちでこの曲を書いてくれたのか、本当によく分かった。彼は「花火を見たときの思い出というか、心境を曲にしたものです」などとよくMCで言っているし、この曲を収録した『Grasshopper』のライナーでもそのことについて触れている。あくまで私の解釈だが、“その一日の出来事”ではなく、父と彼との20年にわたる親交があった上

でのその日のことを描いているのだと思う。父が他界してから6年が過ぎたが、今でも母はこの曲を聴くと涙ぐむ。

…と、ここまでが私たち一家と〈Fireworks〉との関係だが、“そんな曲だから心して聴いてほしい”というつもりは全くないし、むしろ少なくとも私は、聴き手は自由に受け止めるべきだと思っている。

引き合いに出したのは、待望の fuse のライブ盤についてこの曲を例にして話を進めたいからだ。

2005年秋、Motion Blue YOKOHAMAで行なわれた本作『LIVE』の収録には、私も母も足を運ぶことが適わなかった。そしてその制作進展が気になっていた2006年夏、井上氏に聞いたところ「その前に録ったものも良くて、それも入れたいから2枚組にしたい」と言う。そして、完成した本作は、たっぷり2時間強。まるまる2ステージ分が楽しめると思うとそれだけでワクワクした。

もちろん、内容は期待以上だった。まずDISC1は山手ゲーテ座でのテイク。〈BIRTH OF LIFE〉からいつの間にか〈I KIN YE〉へ移り変わる30分のトラックで幕を開ける。まるで組曲のように次々と情景が変わる。そして静寂の極みを音で表わしたかのような〈Watasuge〉。続いて坂井紅介の荒々しいベース・ソロで始まる〈North Rider〉。ファンク然としたエンディングなどは、既に別の曲とも言えるほどの展開を見せる。続いて〈Witch-Tai-To〉。これまで聴いたライブ・テイクよりも、ポップ・ソング然としたアプローチで楽しく聴ける。

ここまででも相当満足。思わず顔がほころんでしまうほどだが、まだ半分だと思ふとなんとぜいたくなことか。Motion Blueでの収録のDISC2は〈Grasshopper〉でスタート。中盤の井上×ツノ犬の掛け合いもさることながら、後半のルパートからテンポ・アップの流れのスリリングさといったら無い。

そしていつ聴いても神秘的なまでの深さを感じる〈Yoshi-ga-daira〉に続き〈Fireworks〉。正直、毎回この曲がどう演奏されるのか緊張するが、今作ではゆったりとしていて、どこなく軽快・愉快でファンキー。これを聴いて、私は心底安心したのだ。

私にとって、一生忘れたいあの日のこと。しかし、それは同じ場所・時間を共有していたほかの多くの観客にとって、全く違う形で記憶



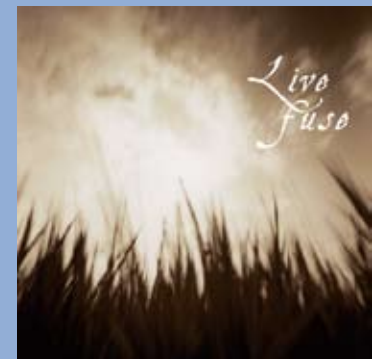
に残っているはずだ。本作では、のんびりした田舎の花火大会の情景だけが私には浮かんでくる。特別な日と日常は、常に隣り合わせだし、私の個人的な気持ちと、音楽とはできるだけ切り離しておきたい。そうでないと、音楽が音楽として聴こえなくなる。思い出は思い出であるべきだし、また前に進む力になるべきなのだ。

そして最後は〈Flood〉でフリーキーに幕を引く。

これだけ長い作品なのに、全く聴き疲れせずにただひたすら満足感が残るのは、彼らの演奏が真に自由だからだと思う。自由な音楽は、聴き手までも自由にしてくれる。だから興奮もできるし、リラックスもできるのだ。

父は“融合”という意味で“fuse”という言葉を考えていたが、実は“導火線・起爆剤”という意味もあるらしい。偶然とは言え、多義的なこのバンドの名前は、その音楽性をシンプルに示しているように思う。そして、このアルバムのリリース・ツアーでは、また異なる顔も見せてくれるはず。そう考えると、本作が3倍くらい楽しめるように思う。

Live / 井上淑彦 fuse



ダイナミクスを最大限に生かした演奏がつくり出すフュージョンの、ジャズの、グラマラスでサイレントな美貌を捉えた初のライブ盤。

Disc 1
01. Birth of Life ~ I Kin Ye
02. Watasuge
03. North Rider
04. Witchi-Tai-To

■パースネル
井上淑彦 (ss, ts)
田中信正 (pf)
坂井紅介 (b)
ツノ犬 (ds)

Disc 2
01. Grasshopper
02. Yoshi-ga-daira
03. Fire Works
04. Flood

EWCD-0119 ¥3,000 (税込)
2007/1/24 Release





キリンジの〈Officer〉という恋愛歌の存在を知ったのは昨年の晩秋の宵だった。都市生活者の漂泊と定住の乖離を見事に描いた同歌の、「たとえ鬱が夜更けに目覚めて／猥（けだもの）のように／襲いかかろうとも」というルフランに文字どおり打ち震え、街を歩きながら何度も何度もくり返しては聴いた。が、堀込高樹が紡いだ深い詞の全体像を咀嚼し、全行の意味を把握したのは師走の街角、美術館へ向かう途上での「啓示」であった。この歌について綴り出すと切りがないので止めるが、詞の最後に「ムーン・リヴァーを渡るようなステップで／踏み越えてゆこう／あなたと」という描写があり、決定的な求愛の一行が続くのだが、その締めめの言葉はこれから聴

耳の摩天楼観光を堪能できる リリカルな一枚。

text by JazzToday編集部

く人のための敢えて伏せておこう。とにかく06年の師走は件の〈Officer〉ばかり、じぶんでも采れるくらいリプレイしていたわけだが、さすがに新春の三が日は聴くのを控えた。そのシリアスでドラマチックな詞の全貌が完全に血肉化し、もはや虚構の世界とじぶんの心象の境界さえ曖昧になって結構、あぶない心音を自覚したからだ。代わりにドン・フリードマンの本作、『ムーン・リヴァー』ばかりをくり返し聴いて松の内を過ごした。出来すぎた構図と映るかもしれないが、本当の話だ。年末最後の宅配便で届いたのが、この素敵なソロピアノ作品集だったのだから…。

NY生活48年の都会派ピアノリストが生んだ音楽的結晶の本作は、「摩天楼の素描」で埋められている。その構成の背景に、あれから5年」という鎮魂の情を読むこともあながち間違いない。冒頭の〈ムーン・リヴァー〉の旋律が流れてきた瞬間、あの「千の風になつて」の朗読声が脳裡を掠めたりもする。地下鉄サリン事件から11年めの東京に生きる昨今のじぶんの焦燥感さえも、

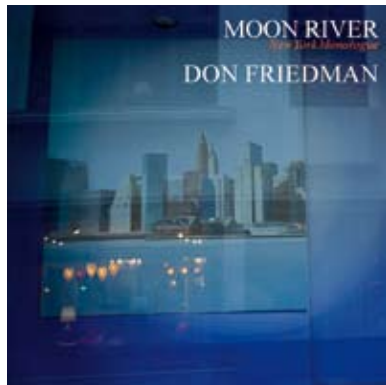
枯淡の指先が奏でる美音に心地よく溶かされてゆくようだ。川端康成の「雪国」が発表された1935年の五月、ドン・フリードマンはカリフォルニア州サンフランシスコで生まれている。が、5歳で弾き始めたピアノ少年がその後、ウエストコースト・ジャズよりは「クール」の誕生以降の東海岸志向に目覚め、そのスタイルの発展・継承に半生を捧げた事実がよく知られている。彼が西海岸に背を向けて、憧れの地NYに活動拠点を移したのはエルヴィス・プレスリーが徴兵された1958年のこと。本人は「自分の音楽を追及するのに最適な場所を求めた結果だよ」と当時を述懐しているが、以来48年間暮らすNY、摩天楼の街へ寄せる想いは人一倍深いのは本作が証左している。

もう一度〈ムーン・リヴァー〉へ戻ろう。同曲は映画『ティファニーで朝食を』の主題歌、オードリー・ヘプバーンの歌唱でアカデミー主題歌賞に輝いたのは有名な話。注目すべきはドン書下ろしの〈オータム・カラーズ〉を挟んで、3曲目の〈捧ぐるは愛のみ〉へとバトンタッチされる流れで、実はミュージカル『ラックバード』（1928年上演）のために書き下ろされた同曲の誕生秘話にも深く、5番街の老舗宝石・貴金属店「ティファニー」が関係しているという。作曲者の作曲者のジミー・マクヒューがある日、同店の前を通った際にショーウィンドウを熱心に覗き込む若いカップルのこんな会話が耳に飛び込んできたという。「こんな宝石を贈りたい気持ち」は山々だけど、今の僕がきみにあげられるのはこの愛だけなんだ…、件の作曲者が「書を捨てよ、街へ出よう」と叫んだかは定かでないけれども、おこぼれで最高のヒントを授かった彼はその足で近隣の楽器店に飛び込んだ。そしてピアノを借り、その場で書き上げた作品がこの曲だという。それこそミュージカルの一幕的な逸話だが舞台がNYゆえに「らしい実話」だし、本作の導入部としても構成が洒落ている。

また、前掲の〈オータム・カラーズ〉を始め〈枯葉〉や〈ニューヨークの秋〉が選曲されている辺り、ドンが最も愛する季節と街の美観は歴然だ。で、ゲッツ／ジルベルトの名共演でも知られる5曲目の〈コルコバード〉で「静かな夜を演出したあとは、NYの夜の喧騒と若き群像を活写して世界的ヒットを生んだ映画『ウエストサイド物語』（1961）の挿入歌〈トゥナイト〉が置かれている。さらに〈ホワッツ・ニュー〉を挟んで、晴れの舞台を夢見て競う芸人たちの青春を描いた映画『ブロードウェイ』（1941）から生まれたジュディ・ガーランドの大ヒット曲〈ハウ・アバウト・ユー〉へと続き、この摩天楼の素描集は音楽的観光のコマを心地よく進めてゆく。イースト・ヴィレッジの代表的ジャズ・クラブで夜な夜なくり広げられた熱演の記憶を髣髴とさせるようなベニー・ゴルソンの名曲〈ファイヴ・スポット・アフター・ダーク〉、数々の名演を残す（パリの四月）と対関係ともいわれるヴァーノン・デューク作詞作曲の〈ニューヨークの秋〉、そして最後を飾るのはコール・ポーターが書いた不朽の名作〈エヴリタイム・ウィ・セイ・グッドバイ〉。NYに寄せる想いとドンのジャズ愛に満ちた一枚だ。ムーン・リヴァーを渡る余韻で頭からもう一回！

Don Friedman

ドン・フリードマン



ムーン・リヴァー / ドン・フリードマン

都会派ピアノの詩人が独白で綴る摩天楼の肖像。

01. ムーン・リヴァー
02. オータム・カラーズ ★
03. 捧ぐるは愛のみ
04. 枯葉
05. コルコヴァード
06. トゥナイト
07. ホワッツ・ニュー
08. ハウ・アバウト・ユー
09. ファイヴ・スポット・アフター・ダーク
10. ワルツ・フォー・マリリン ★
11. ニューヨークの秋
12. モンクス・ムード
13. エヴリタイム・ウィ・セイ・グッドバイ

★ドン・フリードマン 書き下ろし曲
■パーソネル
ドン・フリードマン (piano)
2006年9月8日、東京録音

Eighty-Eight's
VRCL-18837 (Hybrid / CD & Super Audio CD)
¥2,835 (税込)
2007/1/24 RELEASE



本田竹広の一周忌に思う

文・構成 長門竜也

1年前、急性心不全でこの世を去ったピアニストの本田竹広。一周忌に合わせ8社のレコード会社と出版社が合同し、追悼企画を実施する。キャンペーン名は「目を醒ませ、HONDA!」。

2006年1月12日夕刻。破壊と叙情、執念と純真を同居させたピアニストの本田竹広が、宿志たる浄土の浜へと旅立った。ジャズ・シーンにそびえる規制の枠を、野性的本能に従い無骨に飛び越えてみせたあの蜚カラが…。ビート感に溢れ、黒々としたソウルを満面にし、いかにもロマンティストらしい小節を入れて聴き手の多くを陶醉させた。狂気を垣間みせた激しいフォービート、南海の微風を思わす爽やかなフェュージョ

ン、自ら一体化してみせたアフリカ音楽、滴るような叙情に没頭して臨んだ日本唱歌、ベートーヴェンの本質にも迫るクラシック演奏。あらゆる奏法、あらゆるライヴ演奏や残された作品の中に、氏の真の姿は点描されていた。1994年、脳血栓。1995年、脳梗塞。1997年、再度の脳内出血。左半身が麻痺し、骨が砕かれ、心臓が肥大し、肺に水が溜まってもまだリサイタルやライヴ出演をくり返し、死の前夜のステージも成功さ

せ、最期の刻まで相棒たるピアノから離れることをしなかった。そんな本田竹広について息子の本田珠也に聞いてみた。

＊

90年代、竹広は3度も脳障害による闘病生活をくり返した。

「よくやってたと思うよ。あの状態なのに、精力的にライヴ・ハウスに出ていた。病院で『珠也と一緒にやりたいと言ってくれたのが復帰への励みになった』と言っていたようだけれど、直接アリガトウなんて言われたことはないし、それを言っちゃ面白くないよね。ただ、3回目の入院ではもう復帰も無理かと思った。病院の先生からも『もうダメよ、この人』なんて言われたんだからね」

同時に腎臓を悪化させ、人工透析も受け

はじめた。それからは信じられないような厳しいリハビリに臨み、まさに奇跡的復帰劇をみせた。

「最後まで正常ではなかったからダメという医者の方はい方は間違っていないかった。だけれど、存在を示すための生き方って、そんな状態でも人間にはできるわけよ。親父にとってはピアノがすべてで、それを弾くことがあの人の生き方だった。片手がなくなろうが片足がなくなろうが、あの人は弾けることが人生なんだよ」

まだ完全ではない体で、珠也とともに『ふるさと -On My Mind-』を吹き込む。これが竹広最後のスタジオ録音となった。

「あそこで親父は『今のオレにしか出せない音だ』って言っていた。悟ったんだよ。演奏に迷いがなくなったんだ。まだ指が動かない時、病院のリハビリ施設にあったピアノで偶然、〈赤とんぼ〉のメロディが出てきた。それもきっかけだったけど、以前からよくイントロで〈さくらさくら〉とか〈浜辺の歌〉とか童謡唱歌はよく弾いてきたし、あまり指が動かないようなそんな曲だけでアルバムを作ってもいいじゃないって、オレからそう提案したんだ。初めはちょっと躊躇してたみたいだけれど、あれはスタジオの中で二人でこうしようって考えながら作っていった、最初で最後の共作と言えるかもね」

本田竹広 (p)、米木康志 (b)、本田珠也 (ds) のオリジナル・トリオは一昨年12月17日、吉祥寺ストリングスでのライヴが最後となった。

「覚えてるよ。珍しく〈ノー・モア・ブルース〉やったりして。最晩年になってまた、こ

のトリオでそういう曲をやりたいになっていたんだと思う。あの時の演奏は最高だった。まあ、親父とやる時はいつだって最高だけれどね、アハハハ。じつは紀尾井ホールでやったクラシック・リサイタルのあと、入院した病院の先生が『いつ逝ってもおかしくない』って言ってたんだ。吐血性弁膜症っていう病名で、心臓が極度に弱ってた。親父にもそれは伝えてあったの。ただ、同じミュージシャンだから分かるけれど、親父は弾いてまっとうしたかったと思う。もし、あそこですべてをやめていれば、もっと長生きしたかも知れない。だけれど、ミュージシャンとして弾きたいっていう気持ちを抑えることはできないよな。やめろって言われてもやめられないよ。だから親父は前日の1月11日まで弾き倒したんだ」

1月12日の夕刻。ピアノの練習をしようと、いつもその時には指に巻く絆創膏を右手にしたところだったという。第一発見者となった珠也には辛い思い出となった。

「弾こうっていう意識が最後の瞬間まであった証明だよ。でも、ぜんぜん辛いじゃない。いつでも思い出してるよ、大好きだから。最後に寄り添って、頬をなでながら『ごくろうさま』って言ったんだ。親父の死に様？ ああ、納得だね。アツパレだよ。あれしかなかったよね。今、何が足りないって親父の音がないんだよ。あの独特なね…ダダダって親父がやるとダアーってオレもキックで返す。するとウワーって喜ぶんだ。そういうのを演りたいんだよ、親父が喜んでくれるようなあの演奏をさ」



新譜・新刊

ライヴ・アット・鹿児島 USA Vol.1 オレオ (AD) MHACD-2315 ¥2,500
ライヴ・アット・鹿児島 USA Vol.2 朝日の如く爽やかに (AD) MHACD-2316 ¥2,500
ふるさと -On My Mind- 未発表ティク集 (TE) TECD-25538 ¥2,500
ジス・イズ 本田竹広 ウィズ・マイ・ソウル (MK) ISBN978-4-901317-60-3 ¥2,625

旧譜

本田竹彦の魅力／本田竹彦＋渡辺貞夫 5 (AMJ) ABCJ-377 ¥2,500
ザ・トリオ (AMJ) ABCJ-343 ¥2,500
浄土 (AMJ) ABCJ-375 ¥2,500
アイ・ラヴ・ユー (AMJ) ABCJ-342 ¥2,500
ホワッツ・ゴイン・ガ・オン (AMJ) ABCJ-341 ¥2,500
ミス・ティ／T. ホンダ＋ママ "T" (AMJ) ABCJ-376 ¥2,500
ジス・イズ・ホンダ (AMJ) ABCJ-272 ¥2,500
サラーム・サラーム (UM) UCCJ-4050 ¥2,000
ダウン・ストレッチ／エディ・ゴメス with 本田竹彦 (AMJ) ABCJ-344 ¥2,500
アナザー・デバチャー (VIC) VICJ-61421 ¥2,000
リーチング・フォー・ヘヴン (VIC) VICJ-61422 ¥2,000
イッツ・グレート・アウトサイド (VIC) VICJ-61423 ¥2,000
ネイティブ・サン／ネイティブ・サン (VIC) VICJ-61424 ¥2,000
サバナ・ホット・ライン／ネイティブ・サン (VIC) VICJ-61425 ¥2,000
コースト・トゥー・コースト／ネイティブ・サン (VIC) VICJ-61426 ¥2,000
シャイニング／ネイティブ・サン (VIC) VICJ-61428 ¥2,000
リゾート／ネイティブ・サン (UM) UCCJ-4043 ¥2,000
カーニヴァル／ネイティブ・サン (UM) UCCJ-4044 ¥2,000
ガンボ／ネイティブ・サン (UM) UCCJ-4045 ¥2,000
デイルレイク／ネイティブ・サン (UM) UCCJ-4046 ¥2,000
ヴィアー／ネイティブ・サン (UM) UCCJ-4047 ¥2,000
アグンチャ／T.HONDA& ネイティブ・サン (UM) UCCJ-4048 ¥2,000
スクエア・ゲーム／ザ・カルテット (UM) UCCJ-4049 ¥2,000
マイ・ファンシー・ヴァレンティン／本田竹彦、井野信義、森山威男 (SMJ) SICP-1168 ¥1,890
イン・ア・センチメンタル・ムード／本田竹彦、井野信義、森山威男 (SMJ) SICP-1169 ¥1,890
バック・オン・マイ・フィン・ガーズ (BMG) BVCJ-37535 ¥2,310
アーシャン・エアー (BMG) BVCJ-37536 ¥2,310
シー・オール・カインド (BMG) BVCJ-37537 ¥2,310
イーズ／本田竹彦 EASE (BMG) BVCJ-37538 ¥2,310
プギ・ボガ・ブー (BMG) BVCJ-37539 ¥2,310
ナウ・オン・ザ・ブルース (VM) VRCL-3022 ¥2,310
ふるさと -On My Mind- (TE) TECD-39511 ¥12 ¥3,950
紀尾井ホール ピアノリサイタル (TE) TECD-25526 ¥2,500

A M J : (株) アブソード ミュージック ジャパン
V I C : ビクター エンタテインメント (株)
U M : (株) ユニバーサル ミュージック
S M J : (株) ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル
B M G : (株) BMG JAPAN
V M : (株) ヴィレッジ ミュージック
T E : (株) テイチク エンタテインメント
A D : (株) アケタ
M K : (株) 街と暮らし社



編集長アログには「タジマ画伯が編集長だったのね」という
 楽しみ誤解の投稿まで来ちゃって笑、その圧倒的存在感を証す！

「某店では配布3日目まで在庫ゼロだったわが」「へ、悔しい…」
 毎号、本誌をめぐる数々のドラマを生んでくれるタジマ画伯の表紙。

連載 11

絵と文
 タジマヤスタカ



ドラムス・アラウンド・ザ・ワールド
 フィリー・ジョー・ジョーンズ



フォーリン・イントリーグ
 トニー・ウィリアムス



ヤングブラッド
 エルビン・ジョーンズ

今回はドラマー3枚で。数々の名演を支え続けたフィリー・ジョーが「俺だってたまにはやっちゃうぜ〜!」の熱いオレ企画な1枚。日頃お世話になっているホーン陣も「よし、フィリーがそう言うなら!」と馳せ参じてハードバップ・オールスターとも言ふべき豪華編成。タイトル通りドラムが核となり、さまざまリズムを用いた構成、アレンジとなっていてフィリーの鼻息も荒く熱い意気込みを感じます。

若手メンバーで新しくバンドを組んだトニーが1985年に出した久々のジャズアルバム。と言ってもエレキドラム等のかぶせがかなりドシャドシャと凄いです。シモンズでしたっけ? 「どう〜ん」っていうやつ。今となっては懐かしいですね。トニーのスティックさばきや空間演出はもちろん相変わらずの冴えを見せていますが、さらに唸られるはその作曲の才能。うっとり名曲〈シスター・シェリル〉を

タイトルどおり当時の若手フロント3人を迎えてのエルビン道場。あの例の、空間を揺るがす振動波! の中で若い血がガシガシ揉まれております。エルビンらしくピアノレスというフォーマットですが、いつもながらそのスティック、ブラシさばきやシンバルの多彩な音色から生み出される空間は実にカラフルですね。その迫力が若手達の背中を煽って「おらおらあ〜、小手先の気取った演奏はお父さ

フンガー! 勢い余った大仰な構成、演出に多少情熱空回りのなトコもありますが、そんな事よりもここはフィリーの心意氣を買いたしょう。

リー・モーガン、ブルー・ミッチェル(tp)
 キャンボール・アダレイ(as)
 ウィントン・ケリー(p)他

1959年

始め、〈ライフ・オブ・ザ・パーティ〉、〈アーボータム〉など数々のカッコいいオリジナル曲がアルバム全体をカラフルに彩っています。

ウォレス・ルーニー(tp)
 ドナルド・ハリソン(as)
 マルグリュー・ミラー(p)
 ロン・カーター(b)他

1959年

ん許しませんからね!」なのだ。ペイトンはまだ10代、テナー二人もまだ20代、しかし一番熱いのはやっぱり、まだまだ60代! のエルビンなのであった。

ニコラス・ペイトン(tp)
 ジョシュア・レッドマン(ts)
 ジャボン・ジャクソン(ts)
 ジョージ・ムラーツ(b)

1992年

「音楽」とは何か。

text by hanao (JJazz.Net)

vol.7

最近、よく知っているはずの言葉を改めて辞書で引いてみるのが楽しくてたまりません。さあ、「音楽」とは何か。これを国語辞典で調べると、意外や意外、とても新鮮な表現に出会えました。いろいろ引いてみた結果をまとめるため、「音楽」とは、時間の芸術であり、聴覚に訴える美である。そうかと思っただかすっ

新年につきものの抱負、というものを、ここでやってみようかと思ひます。音楽の聴きかたについて。2006年は、ほんとうに沢山の音や人と出会いました。どれもこれも新しく知る音ばかりで、あつちん飛びついたりこつちに飛びついたり。出会うことそのものに忙しかつた感もあるもので今年はいとつ、息を整えて、ゆつたりと音に浸ってみようかと思ひます。

一日が終わってまた次の日が始まるだけなのに、大晦日と元旦を区切る午前0時の一瞬だけは、今も変わらず特別です。新しい年、といつて背筋をのびすくらいいなら、新しい一日いちにちを、もつとびりつと過ごせばいいのに、とも思うのですが、なかなか難しい話です。

みなさま、あけましておめでとうございいます。

JJazz.Netは今年も、音との出会いをわんさか発信していきますので、みなさん目を離さないでください。そして本年も、どうぞよろしくおねがいします。

internet radio station
JJazz.Net
 Japan Jazz Network

月額1,050円の会員サービスでは
 約4ヶ月分のアーカイブ、常時約500曲が聴き放題

>>> **www.jjazz.net**

吉田美奈子の音楽の言葉

聞き書き連載

聞き手：末次「JT」安里（本誌編集長）

Vol.2

美術への憧憬

JT：大竹伸朗さんは食えない状況下で闘ってきた人だし、最近のインタビュー記事を読んでも変わらず「闘っている」人ですね。

吉田：ええ、闘っていますよねえ、彼は。

JT：70年代から「吉田美奈子の音楽」を貰ってきた立場から見てどうですか、その「闘い」に音楽と美術の相違や共通点を感じられますか？

吉田：実は私、子供の頃夢だった彫刻家にはなれなかったこともあって、以前彼に「あなたの作品はすべて美しい! 私は音楽家よりも、アーティストとして作品を創る人に凄く憧れるし、何と言ってもその才能には敬服する」と言ったことがあるんですよ。それはね、例えばこういう「青」を使うとしますよね。

JT：(事務所内の絵を観ながら)これは! バスキアの作品ですね。

吉田：幼稚園でも、この作品の中心を担う色は青だと分かるわけです。そして、ここは黄色、ここは緑だという、教育よっての知識でそのドアを先ず開けられる。それが絵の一部分でも、作家のコンセプトへ導く重要なエレメントなわけだから、理解に行く

Spangles (スパングル) 吉田美奈子



IOCD-20137 ¥3,150(税込)
 SACD とのハイブリッド盤
 (SACD プレーヤー、CD プレーヤーの両れでも楽しめます)
2006/2/22 RELEASE

01. FUN / 02. HOOP
 03. RIM / 04. 8月の永遠
 05. MIRROR TOWN
 06. MOON DROPS / 07. BEYOND
 08. NETTING / 09. CASCADE / 10. FRAME

〈プロデュース/コ・プロデュース〉吉田美奈子 / 倉田信雄

■パーソネル
 吉田美奈子 (Vo.& Backing Vo.)
 岡沢章 (B.) / 土方隆行 (G.) / 倉田信雄 (A.E.Piano,Syn.)
 河合代介 (Organ, Mini Moog) / 山越勉 (Dr.)
 木本靖夫 (Loop, Computer Programming)

〈ゲスト・ミュージシャン〉
 渡辺香津美 (G.) / 園田裕子 (Background vocal)

「飲むの光」をテーマに書き下ろされた十篇。
 渡辺香津美ゲスト参加!

上できっかけになるイメージで、園児にでもある程度は分かるわけです。それがもっと抽象的な絵であってもね。ところが、音楽の基本は響きだから実像が見え辛い。より多くのイマジネーションを注がなくては、想像してもらうことは難しいんじゃないか、と。まして、その向こう側に隠れているものを映像化し、共有するのは無理なんじゃないのか、と。

JT：ドアを開ける手掛かり、鍵がより想像力に委ねられていると。

吉田：そうです、そうなんです。でも絵はね、先ほど言ったように、ある程度誰でも理解の扉を開けられるんですね。そして視点をえて全体を観ることによって…ま、このバスキアは、イタズラ描きみたいな絵ですけれども…配置や形が、理解するヒントをくれる。扉は場合まだ表面的ですけど、色名やその視覚からくる温度が、その感性を補ってくれるんです。「だから、凄くいいと思う」と大竹さんに言ったら、「いやあ、絵描きは…少なくとも俺は音楽のほうがいいと思う。限定したものが無いが故に、俺は音楽に憧れる」って。あくまでも、始まりを司る才能があつての話なんですが、それぞれの志があつて、生業としての努力や経験やプロセスがあつても、「ものを創る同士」だから同じだとは一概に言えないわけです。どんな職業でも、個人のその行為に対する強い思いとか、それにどれだけ深いリスペクトがあるかが問題で、それは音楽の眼に見えない思いとは逆に、リアリティーに隠された思いこそが重要なんだと、大竹さんと話をして改めて理解することができました。

JT：ところで、先ほど「彫刻家になりたかった」と仰ってましたが、その夢は頓挫した？

吉田：そう。小学校の時は美術の先生に可愛がられていて、授業中描き切れなかった絵を、日曜日に先生の前で描いたりとか。コンクールにもどんどん出してくれて、気持ちいい暮らしをしてたんですよ(笑)。でも、中学校になったら美術の教師と全然そりが合わなくてね…今でも覚えています、「未来の照明具を造る」というテーマの授業で、私は下敷きを切って、こう房が下がったような、ビールのホップを模倣したようなかたちものを作ったんです。そしたら「こんなものは出て来るわけがない!」と、クラスの全員の前で罵倒されたんですよ。当時も、既に欧州ではよくある形状だったんですが…。

JT：未来の照明具を造ろう、と言いながら(苦笑)。それは酷い仕打ちですね。



【吉田美奈子】シンガー/プロデューサー/作詞・作曲家
 1969年、当時交流を持った音楽家たちから影響を受け、楽曲制作を始める。間もなくシンガー・ソング・ライターとして、ライブ中心の音楽活動を開始する。1973年、アルバム『扉の冬』で本格的なデビューの後、CM音楽等の制作、他のアーティストのプロデュース、コーラス等のスタジオ・ワークも。2007年1月現在、オリジナル・アルバム19作品(ライブ、ベスト、シングル、企画盤は除く)、コラボレーション・アルバム2作品、ライブ映像収録盤を4作品リリースしている。ジャンルを取払った自由自在な音楽活動は、クオリティーを保ちながらも個性を発揮するミュージシャンズ・ミュージシャンとして、多方面から共演を熱望され、常に高い評価を得ている。

吉田：そう。それでもうキレちゃって。あとはね、デッサンすると紙からはみ出すんですよ(笑)。進学は普通校ではない学校に行きたいと思っていたんですが、教師のいじめにあつて彫刻家への夢がすっかり絶たれちゃって。それに、当時は今ほどの情報も得られないし、それこそキチッとしたデッサンが紙の内側に描けなければいけないとか、正しく形が再現できなければいけないとか(笑)、凄く真面目に考えてたから。発想は自由が根源なんて、誰も教えてくれないでしょ。とにかく、教師の私への態度から、もうダメなんだろう…と思って諦めちゃったんですよ。

YOSHIDA MINAKO & THE BAND 2007

2Days live ~ Ha?! ~

2007年3月16日(金)17日(土)

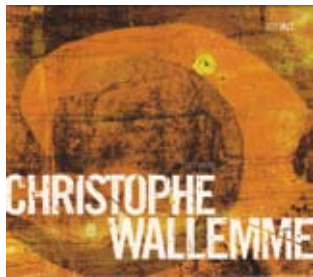
STB139 港区六本木 6-7-11

■開場 18:00 開演 19:30
 ■料金 7,350円(税込)但し、飲食と食事は別料金
 ■出演 吉田美奈子、岡沢章、土方隆行、倉田信雄、河合代介、成田昭彦

チケットぴあ 0570-02-9999 Pコード 248-931
 ローソンチケット 050-00-0403 Lコード 37628
 スイートペイジ 139 03-5474-0139 (受付月~土 11:00~20:00)

インターネット予約は 24時間受付

■問合せ先: STB139 03-5474-0139
 (受付月~土 11:00~20:00)



NAMASTE / CHRISTOPHE WALLEMME

01. HOLI / 02. MON JULES / 03. NAMASTE
04. LE TEMPS DES MOUSSONS
05. TANDOORI GROOVE / 06. SWEET AUM
07. REFLECTION / 08. STONE CUTTER
09. TROUBLE TIME / 10. DIWALI
11. LA JAVANAISE

[パーソネル]
MCHRISTOPHE WALLEMME / NAMASTE (Bee Jazz BEE 016)
CHRISTOPHE WALLEMME (b)
EMMANUEL CODJIA (et-g)
STEPHANE EDOUARD (dholak, ghatam, indian percussions)
STEPHANE GALLAND (ds)
STEPHANE GUILLAUME (ss, fl, bcl, handclapping)

guests
MATTHIEU DONARIER (ts, ss)
PRABHU EDOUARD (tabla, kanjira)
MINNO GARAY (cajon, caxixi, handclapping, vo)
THOMAS DE POURQUERY (as, ss)
NELSON VERAS (g)

するっとはいって、ぬけてゆく。

text by 小沼純一

連載 vol.12

いきなりインド風のカウントだ。この発音、舌が口のなかで反響し唇からでてる音、tとかkとかshといったパーカッシヴな音がタブラへとずつと移行して、音楽が始まる。3拍子。バス・クラリネットとエレキギター、さらにフルートがユニゾンで重なる。交互にソロをとりながらも、あいだに他の楽器がするっとはいってぬけてゆく。鳥や魚がいくつか大気中や水中を動いていくような。そして、その空気や水にはしっかりと振動が、ビートが息づいている。

ナマステ、わたしの神があなたの神に感謝する、をアルバム名としたクリストフ・ワレムは、トリオ「PRYSM」で活躍していたから、知っているひとも多からう。

1964年パリの生まれで、フランス人の父、モーリシャス人の母。レバノンとインドに長く暮らした青少年期を経た後、音楽に熱中するクリストフは、スコット・ラファロを初めて聴いたとき、ジャズにおいて「感受性」と「表現性」の意味するところが理解できたのだと語る。

4、5年住んだインドの記憶は遠くなりながらも自らのなかに生きている。そうライナーに記すクリストフは、インドと両親にアルバムを捧げる。

たしかにタブラやガタムの活躍する曲もある。ちょ

つとした節回し、モードの使い方、テーマのリズムにも特徴はある。ピアノレスのサウンドに、ガタムは、素焼きの壺、の金属的で鋭く、それでいてまるさもあるひびきを加える。にもかかわらず、ここにはインド的な「くさみ」が、それが「売り」というわけではけっして、ない。これは、自らの経験してきた音楽を含めた、混血的な西洋人の心身に、時間と空間の距離が意識されたうえで消化＝昇華されての音楽なのだ。

クリストフのベースはただアンサンブルを支えるのみならず、他の楽器にもっと立体的に寄り添う。ドラムスとタブラ（あるいはガタム）の複層的なリズムにシンコペーテッドに重ねられもする。各楽器が繊細なテクスチュアと相互の瞬間的な掛け合い、全体にある構成観と音＝色への配慮にクリストフのセンスは自然に感じられるだろう。

全11曲中、最後の曲はセルジュ・ゲンズブール〈ラジャヴァネーズ〉。タブラとエレキギターのアタックなしのサステインにのって奏でられるベースの音色は素晴らしい。アルバムを閉じる、ライヴの最後で、メンバーが挨拶をして幕切れにびったり。うん、コース料理がしっかり締めくくられた、そんな充実感だ。

第9回

Impression of Tristano

文&カット 平井庸一



窮地

が皆若いうちはともかく、30代にもなると、ギャラがほとんど出ないバンドでの演奏をそう何度も頼むわけにもいかないで…。

しばらくはこのまま継続して活動していけるだろうと思っていたのですが、残

念ながらそう順調にはいきませんでした。バンドを結成するきっかけにもなったピアノの都築猛が突然脱退してしまったのです。当然慰留したのですが、彼自身いろいろ考え抜いた上での決断だったのが脱退の意思は固く、引き留めることはできませんでした。都築さんのピアノはバンドの中核で、サウンドの「トリスターノっぽさ」の大半を担っていたので、彼の存在なしで同じ方向性のままバンドを続けるのは不可能でした。

しかしすでに2ヶ月先までライヴをブッキングしてしまっているのです。一旦ライブ活動を中断するという訳にはいきませんでした。ピアノ抜きでどうやって今までと同等、あるいはそれ以上のクオリティのサウンドを創れば良いのか悩みました

が、このことがただのコピーバンドを脱し、トリスターノの音楽に対する自分たち独自のアプローチを考える転機にもなりました。

参考にしようとトリスターノ関連のレコードやCDを聴き漁っていると、その中にピーター・インド(B)がWAVE Records(インドの自主レーベル)に録音したアルバムがありました。インドのアルバムには2ベース編制のものが何枚もあり(ひとりでベースをオーバーダブしているものもある)、2本のベースが同時にウォーキングを刻んだり、一人がベースソロを取るとき、もう一人がバックでベースラインを弾いたりしています。そのサウンドが印象に残り、ここにないかヒントがあるんじゃないだろうかと思いました。

(以下次号)

LIVE スケジュール

●2/20(火) 新宿ピットイン昼の部
平井庸一(G)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、
橋爪亮吾(Ts)、海道雄高、蛇子健太郎(B)、
竹下宗男(Dr)

●毎週金曜日 夜7:30
六本木 FIRST STAGE (03-3405-1910)
¥2,000 (ドリンク付)
ジャムセッション進行。



チャリ

ンコ

de

ソロ

ピアノ

ツアー

Vol.3

そして、旅は続いていく

text by 中村真



旅から得たダイレクトな感動を表現する、とはいえ、僕のピアノは、例えば鳥海山の美しさを表現したり、越前海岸の荒々しい風景を、直接表現している訳ではない。それらから受けた感動を、僕、というアーティストの感性を通して表現していく。旅を続けるうちに、そのプロセスがよりダイレクトになっていった。

アーティストとは、いわば他人に感動を与えるのが仕事。ですが、そのためには、自らも感動を得なければ枯渇してしまう。僕は、音楽は、音楽からは生まれないと思っている。もちろん、ひたすら音楽にのみ取り組む時期は僕にもあった。ただ、それだけでは、本物の表現者たり得ないことを感じていた。どんなに美しい写生でも、本物の花にはかなわないのだから。そこにアーティスト本人の持つ美意識が投影されて、はじめて花の絵は芸術として完結するのだ。そのためには自らの感性を磨かなければならない。音楽は、そしてアーティストの感性は、むしろ非芸術的なことから生まれるのだ。いや、

非芸術的なことからしか生まれないのだ。そのことを、僕は直感的に察知していた。それが20代後半、はじめてのチャリ旅に出た動機かもしれない。

自転車で大阪から青森まで、その行為を、人によってはスティックな行為だと思うかもしれない。だが、僕にとってそれは決してそうではない。そこから、直接、間接的に得られる様々なことは、たとえ他人には苦痛に見えたとしても、僕にとっては喜びなのだ。むしろ、苦痛なことを乗り越えたことによって得られた経験は、普通に得た経験よりも深い意味を持つことが多い。

琵琶湖を越え福井県を目指す。雨の中越えた何やら峠、登りはまだいい。峠で少し休憩したがために下りでは凍えそうになる。下りがこんなに辛い峠越えははじめての経験だ。真冬なら防寒具もそれなりに持ってくるが、春、こんなに寒いとは思ってなかった。本来ならさわやかな風が気持ちいい峠下りも、寒風吹き荒み、靴にも水が浸水するととても苦難に満ちたものにな

チャリンコ de ソロピアノツアー vol.2 2007のお知らせ。

● 前回は引き続き、今回は4月中旬に九州は鹿児島から大阪までのツアーを計画しています。つきまして、出演させていただけるライヴスポットを募集しております。
● ライヴハウスに限らず、ピアノがあってお客さんがいれば、どんな場所でも出来る限り演奏したいと思っています。前回のツアーでは、旧家やお寺等、普通とは違った場所での演奏もたくさんありました。また、ミュージシャンやファンの方で、自己責任でツアーに帯同したい人も同時に募集しております。興味を持たれました方、又はご質問等ございましたら、makoppo081@aol.com 又はウェブサイト宛に連絡ください。
● お待ちしております。

中村 真 <http://members.aol.com/makosimo/>



る。下り終え、すっかり日も暮れてしまった中、海岸でテントを張れる場所を見つけ一安心。近くの銭湯に入り、すっかり冷えきった体を温める。この日は自炊はあきらめ、テント場の近くの居酒屋に突撃。自分を甘やかす。たまにはいいよね。一人で飲んでいると隣の中年夫婦が話しかけてくる。おじさんも、日本中を自転車旅をした自分の青春の思い出を語ってくれた。

次の日、越前海岸を走っていたら、通り過ぎた車がハザードランプを点灯させて止まっている。なんと、そのおじさんたち夫婦だった。偶然の再会!! 苦難を乗り越えた後、見えてくる風景は、きっといつも見る風景とは違う。それに、苦難の後の安寧は、よりそのありがたみを教えてくれる。安らかな寝床を与えてくれる大地に対して、一日暖かく過ごさせてくれた太陽に対して、食べ物に対してや、お水を汲ませてくれる人々に対して、体を清めてくれ、温もりを与えてくれるお風呂に対しても、時に泊まる安宿にも。こんな自分の旅に共感してくれ、演奏の場を与えてくれた人々に対して。そしてそれを聞きにきてくれるお客さんに対して。

地べたで寝てご飯を食べ、当たり前なのが当たり前でない生活が続けると、普段当たり前だと思っていたことに対してのありがたみを感じることができるチャリ旅は、僕に感謝の気持ちも教えてくれた。僕の旅はまだまだ続く。

SOLO PIANO vol.3 紡がれた印象 中村真



EWCD-0112 ¥2,500 (tax in)
2006/7/5 Release

01. Spring can really hang you up the most
02. That sunday That summer
03. The comparison of a D ♪ major and the other
04. 風子 / 05. The first water / 06. Blue in green
07. くまさんのブルース / 08. Improvisation - Erotic Blue
09. 夏の思い出
10. Improvisation - Bluespotted Mudhopper
11. Improvisation - Erotic Blue

[パーソネル] 中村真 (P)

オリジナル曲を中心にラルー・イン・グリーンなどのスタンダードを斬新な解釈で演奏したピアノ・ソロ第三弾!



© NAMI OGATA

Jazz of LIFE

シカゴと夜と音楽と

連載 vol.10

100歳の伝説

text by 尾形奈美

<http://www.chicagojazzphotos.com>

意外に短い。ディキシシーや南北戦争後の黒人プラスバンドはどうなんだ、と言われたら困ってしまうが、あくまでも一般的に言われるジャズを考えた場合。

そのジャズの歴史を作ってきた伝説的なジャズ人の中には、ここ数年の間に訃報を聞いた人も多い。が、いまだ現役で活躍している“伝説”がいるのもまた事実。Von のように毎週 2 時間休憩なしでサクセス演奏を続けている 85 歳もいれば、90 歳目前に世界中を飛び回って演奏活動する Hank Jones のようなピアニストもいる。そんな彼らの昔話には、とても興味深い歴史が詰まっていたりする。

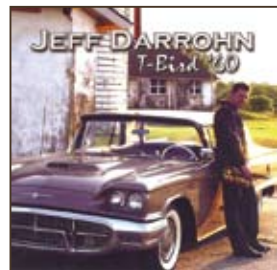
20 年代にニューオリンズからシカゴにやってきたピアニストの一人、John Young とステージの休憩時間に雑談していたときのこと。ふとしたきっかけで、子どもの頃の話になった。「シカゴに来る電車を稼ぐのに、お母さんは浴槽にビールを作って売ってたんだ。僕はそれをバスタブビールって呼んだんだよ」とジョンは子供みたいにケラケラ笑った。生きていくための移住、密売。平和な日本に生まれた私には、とうてい信じられない話だったが、それが彼らの現実。興味津々な私に、ジョンは話を続ける。「僕はラッキーだよ。身近にピアノがあったからね」私は打診半分、何気なく聞いてみた。「ピアノ教えるの?」すると、90 間近のジョンは嬉しそうに白い歯をニヤリとむき出し、いたずらな笑顔でこう答えた。「Not yet (まだだよ)! 100 歳になったらね!」

ジャズが生まれて今年で何年目かという質問には様々な解釈があるだろうが、Louis Armstrong がニューオリンズからシカゴにやってきた 1922 年から数えれば、今年はちょうど 85 年目となる。ジャズが初めてレコードになったのが 1917 年だから、そこを基準としても生誕 90 年。なんだ、まだ 100 年も経ってないのね、と言う人もいるが、そう考えてみると、ジャズの歴史は

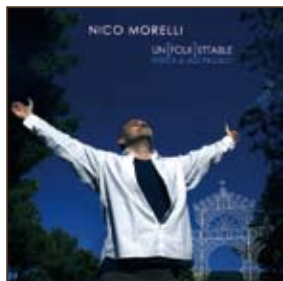
「今月の一枚」

最近自主製作・超マイナーレーベルのCD が数多く店頭に並ぶようになった。しかも結構値段も高かったりする。正直ハズレが多く何度も痛い目にあっている。しかしそんな中にはハッとする作品に出会うこともある。たまには冒険も忘れない。これは Jeff Darrohn のデビュー作。超マイナーレーベルゆえソプラノ、アルト、テナー、バリトンを多重録音している。しかし多重録音とは思えないスリリングなホーンといえなせなアレンジ。ストリートに届く、エッジの効いた分厚いサウンドにグイグイと引き込まれる。プリプリとしたハードバップにのせて、メロウに、軽やかに、胸躍らせてしまうジェフならではのレシピにもうお腹一杯という感じだ。

(大河内善宏)



Jeff Darrohn / T-Bird '60 (Jazz Media)



Nico Morelli / UN[FOLK]ETTABLE Pizzica&Jazz Project (cristal)

圧倒的な存在感のある CD でございます。これに較べたら他は、どれも同じに聴こえてしまいます。もう、人の価値観を転換させるくらい衝撃的な音楽力を持っているとボクは信じております。無国籍風音楽やオルタナティブな音楽のように、混濁した非西洋音楽の様式を積極的に取り入れながら、ボーダーレスに向かう現代音楽のすべてを集約し、エキスを抽出して再構築し、ジャズ作品として巧みにまとめあげています。オンガクのパワーが漲って溢れています。このアルバム聴いて面白くないという人は、もはや音楽そのものを否定しているのではないかとボクは思っています。それほど、このニコ・モレリに陶酔しきっていますのです。マジで。

(前泊正人)



Jeremie Ternoy / Jeremie Ternoy Trio (自主制作)

旬でホットなジャズ情報！ MOONKS EXPERIENCE NEWS Vol.8

ピアノトリオの好みは MOONKS のなかでも分かれている。美旋律にこだわるもの、構成美と展開に痺れるもの、リズムを追い求めるものなど。私は元々スウィングで単純なノリノリのピアノが好きだったのだが、上原ひろみに出会って以来、「異旋律」とも呼ぶべき音階とリズムの巧妙な罫にはまっている。ジェレミー・テルノイはバリで活躍する異旋律のピアニスト。エレキベースとドラムのリズムは低く厚い雲のなか不気味に響く雷鳴のようにある種のトランス状態を生み、テルノイは麻痺した思考にフラッシュバックのような異旋律を絡ませる。テルノイの企てた罫に思考をまかせ、その刺激によって生まれた脳内麻薬に酔いしれる。

(白澤茂穂)

原田眞人→宇崎竜童→矢野沙織→早坂沙知→原田芳雄→坂田明→阿川佐和子→島田歌穂→森山良子→かまやつひろし→藤田恵美→岡本真夜→

J A Z Z への扉 Vol.13

私って「ジャズピアニスト」というより「ジャズファンのピアニスト」かな。 国府弘子 (説)

コメント取材場所に選ばれたのは梅ヶ丘の商店街にあるギャラリー喫茶『ゾーエー』。ゾーエーとはギリシャ語で「命」の意味。近隣のジャズ・ファンの溜まり場的小店に国府弘子さんは自転車で登場した。一曲選んだのですけれど、ジャズじゃなくてもいいですね? スティーヴィー・ワンダーのアルバム『キー・オブ・ライフ』の〈アズ(永遠の誓い)〉、この曲のハービーのローズ・ピアノのソロが大好きなんです。ほんとはピーター・ソンの『ブリーズ・リクエスト』とかエヴァンスの『ワルツ・フォー・デビー』がジャズとの出会いになりますが、ちょっと飽きちゃったしね。と言いつつ、店内にエヴァンスやピーター・ソンの楽譜が流れると、やっぱりいいわ。

小さい頃からクラシック・ピアノを習い、音大も卒業したのですが、実は子供の頃から私はポピュラー指向、ポップスおたくでした。今でもビートルズなどはマニアの方とお話しても負けないつもりです。国立音大時代は、他校の音楽サークルに加わってスティーヴィー・ワンダーやアース・ウィンド&ファイアーといったクロスオーバー系を演奏していました。

ある時、学校の門の前で、ヤマハの「音大生でも弾けるポピュラー音楽講座」というチラシを手にしたんです。もし「ジャズ講座」と書かれていたら、怖じ気づいて行かなかったかも(笑)。でもポピュラー・ピアノと書いてあったので、生意気にも道場破りの気分で行ってみたくて。それまでも結婚式場とかレストランで演奏し、ポピュラー・ミュージックのレパートリーが多かったこともあり、それなりに自信はありましたし、音大生活だけでは物足らず、ちょっと外で演奏して自分の腕前を試してみたくったということもあります。

ところが、迎えてくれた講師はバド・パウエル研究家の藤井英一先生。藤井先生はビバップのオーソリティですが、「音大生にも弾けるビバップ講座」では人が集まらないので、ヤマハがポピュラー・ピアノ講座と命名したんじゃないかな(笑)。ともかくそこで、先生に聴かせてもらったのがバド・パウエルの『アメイジング・バド・パウエル』、オスカー・ピーターソンの『ブリーズ・リクエスト』、ビル・エヴァンスの『ワルツ・フォー・デビー』などなど。気がついたらジャズ、特にビバップに恋してました。

それ以前に、スティーヴィーの〈アズ〉の後半のエレビ・ソロがカッコよくて自分でコピーしたりしていたんですが、それがハービー・ハンコックだという事も先生に教えられ、譜面を使わないアドリブソロというもののスリルと楽しさ(&難しさ)を教えられ、ついにジャズにはまってしまったんです。音

大生にとって、エヴァンスの〈ワルツ・フォー・デビー〉のテーマなんてまるでラヴェルのように聞こえますから、とてもすんなりと耳に入ってきましたし、ピーターソンには、こんなにウキウキと楽しく即興演奏が出来るのか、なんて感服しました。バド・パウエルは最初あんまりピンと来ず、巧いのが下手なかも分かりませんでした。今ではもちろんスゴイと思うけど。その後、私はニューヨークに住み、現地でやはりバップの重鎮バリー・ハリスに師事したくらいですから、当時かなりバップ演じだったんですね。

ただ、プロデビューして自分のアルバムを創るようになってから、実は4ビートやビバップの曲調はほとんどレコーディングしていないんです。それはある意味、バップの巨匠たちへの畏敬の念というか、とにかく「コピー」したものを消化して、自分のモノにしないと意味がないという気持ち。だから自作曲は、クラシックからバップ、ブラジルものやラテン、ロックとかなり気ままに取り入れて「ジャンルレス」になっていると思います。でも、ふとしたセッションの時に「あれ、バップ相当好きでしょ?」と仲間に指摘されると、照れくさいようなうれしさを覚える。

音楽で一番大切だと思うのは「胸に響く温かいメロディ」。それはジャズであれクラシックであれ関係なく、自分自身の創る音楽も歌心あふれる温かいものでありたい。そして、今その歌心を奏でる際に、20 代の頃さんざん学んだビバップのフレーズがとても生きている事は確かです。自分が生粋のジャズピアニストとは全然自覚してませんが(そんな自信はナイ!)、でも生粋のジャズファンだ、とは確信してる。それくらい、ジャズは奥深い音楽だと思っています。

編集協力: ピンポイント

ゲスト
国府弘子



【国府弘子略歴】

東京都渋谷区西原生まれ。国立音楽大学ピアノ科三富二葉教授に師事。在学中にジャズに自覚め卒業後単身でニューヨークに渡り、バリー・ハリスに師事。1987 年ビクター JVC レーベルと契約。以後約一年に約一枚のペースでアルバムをリリース。ピアノと作曲両面で、クラシックからジャズ、ブラジル音楽やラテンまで、一つのジャンルにこだわらないマルチな取り組みで独自の国府ワールドを確立し、またその気さくで陽気な人柄と暖かなステージで全国に幅広いファンを持つ。
『月刊ピアノ』『ジャズライフ』『ピアノ・ライフ』などでセミナー連載執筆中。NHK FM『ジャズ・トゥナイト』(隔週土曜日 23:00 ~) のレギュラーパーソナリティ。

国府弘子スケジュール

2007 年 2 月 3 日 (土)
神奈川・よこすか芸術劇場 ジャズ・ピアノ 6 連弾
2007 年 2 月 7 日 (水)
滋賀・栗東芸術文化会館さくら SAKURA Live Mission Act.14
国府弘子ピアノライブ ~音のおしゃべり、音のお料理~
2007 年 2 月 10 日 (土)
東京文化会館 音楽の匠 東京文化会館の響きに挑む 5 夜 Popular Week
2007 年 2 月 17 日 (土)
東京・サントリーホール ジャズ・ピアノ 6 連弾
2007 年 2 月 24 日 (土)
静岡・アクティシティ浜松 ジャズ・ピアノ 6 連弾
2007 年 2 月 25 日 (日) 26 日 (月)
新潟・岩手 PIT-INN 国府弘子スペシャルトリオ
2007 年 3 月 4 日 (日)
茨城・ひたちなか市文化会館 ジャズ・ピアノ 6 連弾
2007 年 3 月 25 日 (日)
神奈川・葉山 cafe' もうひとつの風景 ライブ
国府弘子ピアノソロ in 葉山

国府弘子ホームページ
<http://kokubuhiroko.net>

”原音”へのこだわり

ジャズ・クラシックの名曲 約3万曲 高音質で勢揃い

HD高品質音楽配信サイト e-onkyo music
<http://music.e-onkyo.com/>

The live line!

2月の新宿ピットイン【夜の部】

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000～(1DRINK 付)



2月1日(木) 渋谷知ラズ

◎新宿ピットインにて1/2 16時よりチケット(予約可)前売り開始。

2月2日(金) What is HIP?

¥3,500

松本恒秀 (G) 野力奏一 (Key) 岡沢 章 (B) 渡嘉敷祐一 (Ds)

2月3日(土) ジョージ大塚 NIGHT

ジョージ大塚 (Ds) 深沢真奈美 (P) 高山夏樹 (B)

2月4日(日) 清水くるみ ZEK TRIO

清水くるみ (P) 米木康志 (B) 本田珠也 (Ds)

2月5日(月)

長見 順 GROUP

長見 順 (G,Vo) 藤澤由二 (P)

上村勝正 (B) 岡地曙裕 (Ds)

ゲスト:

石崎 忍 (As) 佐藤 帆 (Ts)

KOO (Tp) YASSY (Tb)

2月6日(火) BOZO

津上研太 (As) 南博 (P) 水谷浩章 (B) 外山明 (Ds)

2月7日(水) Os Amarelos

前田優子 (Vo) ヤヒロトモヒロ (Per) 竹中俊二 (G)

2月8日(木)

HIROSHI MINAMI GO THERE!

南 博 (P)

竹野昌邦 (Sax)

水谷浩章 (B)

芳垣安洋 (Ds)

2月9日(金) ET SESSION

藤山英一郎 (Ds) 西尾健一 (Tp) 西藤大信 (G) 池田 潔 (B)

2月10日(土) 辛島文雄 カルテット・ナイト

辛島文雄 (P) 池田 篤 (As) 川村 竜 (B) 横山和明 (Ds)

2月11日(日) 一噌幸弘 TRIO

一噌幸弘 (笛, その他) 鬼怒無月 (G) 吉見征樹 (Tabla)

2月12日(月) モヒカーノ 関&ラテンジャズ8重奏団

モヒカーノ 関 (P) 藤田明夫 (As) 鈴木雅之 (Ts) 中路英明 (Tb)

高橋ゲタ夫 (B) 平川象士 (Ds) 今福健司、美座良彦 (Per)

2月13日(火) チコ本田 GROUP

チコ本田 (Vo) 竹内 直 (Sax) 和泉聡志 (G) 吉田桂一 (P)

荒巻茂生 (B) 江藤良人 (Ds)

2月14日(水) SHOOMY BAND

宅朱美 (P,Vo) 加藤崇之 (G) 是安則克 (B) 樋口晶之 (Ds)

ゲスト: 松風鉦一 (Sax, Fl)

2月15日(木) 渋谷 毅 オーケストラ

¥3,500

渋谷 毅 (P,Or) 松風鉦一 (Sax, Fl) 片山広明 (Ts) 津上研太 (As)

松本 治 (Tb) 石渡明廣 (G) 上村勝正 (B) 古澤良治郎 (Ds) ほか

2月16日(金)

板橋文夫 オーケストラ

板橋文夫 (P) 井野信義 (B)

つの犬 (Ds) 片山広明 (Ts)

田村夏樹 (Tp) 吉田隆一 (Bs)

太田恵寛 (Vn) 翁長巳酉 (Per)

2月17日(土)

STEVE ELMER TRIO [Shingo introducing N.Y.]

前売¥4,000 当日¥4,500

スティーブ・エルマー (P)

田中秀彦 (B)

奥平真吾 (Ds)

◎新宿ピットインにて、1/8 よりチケット (予約可) 前売り開始。

2月18日(日) 橋爪亮督 Group "Tour 2007" Final

橋爪亮督: (Ts, Loops) 市野元彦 (G) 橋本 学 (Ds) 織原良次 (B)

2月19日(月)

phonolite 『My Heart Belongs to Daddy』CD 発売記念

水谷浩章 (B) 松本 治 (Tb) MIYA, 太田朱美 (Fl)

竹野昌邦, 松風鉦一 (Sax) 橋本 歩, 平山織絵 (Vc)

中牟礼貞則 (G) 外山 明 (Ds) 大儀見元 (Per) 新居章夫 (Sound)

2月20日(火) Terje Isungset / 一噌幸弘

前売¥3500 当日¥4000

テリエ・イスングセット (Per) 一噌幸弘 (笛, その他)

2月21日(水) Nervio (ネルビオ)

新澤健一郎 (P, Key) 音川英二 (Ts, Ss) 西嶋 徹 (B)

岩瀬立飛 (Ds, Voice) ヤヒロトモヒロ (Per)

SHINJUKU PIT INN

〒 160-0022

2-12-4 ACCORD BLDG. B1

Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN

☎ 03-3354-2024

http://www.pit-inn.com

2月22日(木) 秋山一将 NIGHT

秋山一将 (G)

ゲスト: 竹内 直 (Sax) 清水くるみ (P) 工藤 精 (B) 本田珠也 (Ds)

2月23日(金) Freylekh Jamboree

瀬戸信行 (Cl) 瀬戸一成 (Tp) 金子鉄心 (Ss) 白起かすみ (As)

三原智行 (Tb) 山口涼子 (Vn) 藤沢祥衣 (Acco) 河村光司 (Tuba)

太田ピカリ (Ds)

ゲスト: 鈴木亜紀 (Vo, P) AKIKO, KIKI (belly dance)

2月24日(土)

unbeltipo Trio

前売¥3,500 当日¥4,000



unbeltipo Trio

今堀恒雄 (G)

ナスノミツル (B)

佐野康夫 (Ds)

◎新宿ピットインにて、1/8 よりチケット (予約可) 前売り開始。

2月25日(日) Ubiquitous (ユビクトス)

¥3,500

金子飛鳥 (Vn) 鬼怒無月 (G) ヤヒロトモヒロ (Per)

■ 村田陽一 3DAYS ■

¥3,500

2月26日(月) 4 Bone Lines

村田陽一 (Tb, Loops)

古賀慎治, 池上 亘, 篠崎卓美 (Tb)



村田陽一

2月27日(火) HOOKUP

村田陽一 (Tb)

石成正人 (G)

小松秀行 (B)

佐野康夫 (Ds)

ほか

2月28日(水) ORCHESTRA

村田陽一 (Tb) 松島啓之奥村 晶 (Tp)

山本 拓夫, 津上研太 (Sax)

青木タイセイ (Tb) 三好功郎 (G)

一本茂樹 (B) 佐 野康夫 (Ds)

ほか



DAVID MURRAY SPECIAL INTERVIEW

Jazz Is The Teacher, Funk Is The Preacher

interview by JJazz.Net

Q…あなたは常になくさんのプロジェクトを精力的に行なっていますね。
デヴィッド・マレイ (以下DM)…僕がとてもあきつばいからだよ(笑)。ジャズは色々な形で演奏されるものなんだ。ジャズは黒人が発明したものだけど異なる色々な音楽や文化に対して常にオープンなんだ。ジェイムス・ブラッド・ウルマーの曲で「Jazz Is The Teacher, Funk Is The Preacher」って言うのがあるけど、正にそのとおりなんだ。ある曲があったら、それをジャズっていうフィルターを通すと洗練されたものになる。そしてファンクやその他のポピュラーミュージックは子供たちが何かを手にするための伝道師みたいなものなんだ。それに50年代からのジャズファンはもう80歳だよ。ジャズは新しいファンが必要だよ。そのためには僕はいつも耳をオープンにしているんだ。息子は今21歳でギターをやっているんだけど、彼の聴いているものをチェックしたりしてるよ。

Q…今、進めているのはどんなプロジェクトですか？

DM…今、取りかかっているのはロシアの詩人のプーシキン・プロジェクトなんだ。2005年に『War Agai』というアルバムをカルテットとストリングス10人を作ったんだけど、これが最初のプーシキン・プロジェクトで、今回はプーシキン・プロジェクト2なんだ。これはもっと演劇的な要素が強いもので、『スターレック』にも出てた俳優のエイヴリー・ブルックスがプーシキン役で歌で参加してるんだ。他にもロシア人の歌手や俳優、ストリングス、それと僕の6人編成のグループによるものなんだ。

Q…プーシキンが題材というのは面白いですね。

DM…なぜ、プーシキンに興味を持ったかという、彼の曾祖父がアフリカ人でプーシキンは黒人とロシア人のミックスなんだよ。彼はロシアの英雄的な詩人だけど、ロシア語だけでなくフランス語やドイツ語でも詩を書いてた。しかも彼の詩には彼自身の中のアフリカ性について書かれている詩もあるんだ。プーシキンの作品は人種の垣根を超えて愛されている。今回のプロジェクトで僕は、僕がアメリカの黒人の偉大な仲間がヨーロッパにもいるんだよ、ということを感じたと思うってるんだ。ブラック・ヒストリー月間にはプーシキンも取り上げられるべきだと思うよ。彼も僕らの英雄の一人なんだ。プーシキンは言うならば「マルチ・カルチャー・スター」だね。

Q…ジャズに興味のある若いリスナーに何かアドバイスをお願いします。

DM…OK。とにかく、それが本当にスキ…っていう曲を探さることかな。たとえば僕が、時期よく聞いていたのは、Billie Holiday、というベン・ウェブスターとコールマン・ホーキンスがリズムセクションと一緒になっている。なんていうか、ヴァイブという、メロウでもあり、とても「居心地のいい」曲なんだよね。ほら、クリスマスの時期や朝起きるとお母さんが



朝食の支度をしている暖かい光景のような、そういった安心感のある、すぐリラックスできてとにかく落ち着ける感じ。多くのR&Bがそういった雰囲気をもっていると思うんだ。自分を一番落ち着かせてくれて、居心地のいい曲を探すのは、コクイだと思うよ。ハードなR&Bから聞かなきゃなんて意気込む必要はないと思うんだ。誰もわざわざ最初にセシル・テイラーから聞いてみよって思わないでしょ？(笑)。もちろん、僕はセシルは大好きだよ(笑)。だけど初めて聞くには難しすぎるからね。だったら、テューク・エリントンとか、セロ・テラス・モンクとか、もっとシンプルで、ソウル感があって聞きやすいもの、自分が聞いていて気分良くなるもの、それでいて自然と自分がその曲にはまっていけるもの、自然とタップを踏んだりとか、鼻歌をうたったりとか、そうしているうちに、テンポの速いものを聞いてみたり、もっとハードなものを聞いてみたりと、そういったことを繰り返しているうちに、自然と自分がR&Bのとりになっているんだよね。他のタイプの興味もひらいて、あれも聞いてみよう、これも聞いてみよう、今度はこんなタイプを聞いてみようとか、どんどん欲望が増していくっていうか…僕は今でこそレコード店もあまりいかなけれど、昔はよく行っていた。すると前は1枚しか買わなかったのに、3枚くらい買って帰ってきちゃうような(笑)。きつそうだった頃にはセシル・テイラーの曲で「自覚めくらいになっているだろうし(笑) サン・ラやアート・サンサブル・オプ・シカゴ、アンソニー・ブラクストンとか、それこそデヴィッド・マレイとかね(笑)。とにかく、最初の、聴き始め、スタート地点つてもの凄く大切で重要な「ト」なんだと思うよ。

NEW DISC INDEX

月の鳥

渋谷毅・石渡明廣

ふたりが紡いでいく演奏は微かに甘く濃郁とした風を運んでくる。その自然に向こうからやってくる風こそ音楽の喜びと言うべきだろう。

01. Talk about walking through
02. 月の鳥
03. 影響の記憶
04. Sing in exit
05. Body and soul
06. Obscure steps
07. Mr.Monster
08. 深く、ゆっくり、上へ

渋谷毅 (p) / 石渡明廣 (g)

carco
carco-0008
¥2,500(税込)

2006/12/20
Release

ウマ・ダマ・タンペン・ケル・シ・デヴェルチール

マリアーナ・パルテール

テレーザ・クリスチーナ、アナ・コスタに続く Samba-Nova 新星美形女性ボーカル! 柔らかなでコケティッシュなボーカルながら、レパートリーは本格派。新たなソフト・サンバの傑作がついに国内盤リリース!

01. PRESENTIMENTO / 02. DEIXA COMIGO
03. BALA COM BALA / 04. ZUMBI / 05. RALADOR
06. VAI COM DEUS / 07. INSENSATEZ
08. FITA MEUS OLHOS
09. OBSESSAO-VAI, MAS VAI MESMO-ME DEIXA EM PAZ
10. SECAO 32 / 11. DONA BIU
12. O PISTON DO BARRIQUINHA / 13. SAMBA DA ZONA
14. SUSPENSO NO AR

インパートメント
RCIP-0103
¥2,625(税込)

2007/1/22
Release

BEYOND IT ALL

ALLEN HINDS

メロディアスな旋律とブルースのドライブ感、JAZZ のセンスを合わせ持つギタリストアレン・ハインズ最新作

01. Elegant Decadence / 02. Redland Road
03. Worn But Not Tattered / 04. Beyond it All
05. Kate and Dave's / 06. March 28th
07. Now Really / 08. Bad Baby / 09. Closure

ゲスト
ランディ・クロフォード / ジミー・ハスリップ
ウィル・ケネディ 他

Vega Music Entertainment
VGDWN0011
¥2,940(税込)

2007/1/26
Release

サーム

トーマス・クローセン・トリオ

デクスター・ゴードンに認められ、ジャッキー・マクレーンと初録音、マイルスとも共演 / 録音しているデマーク・ジャズを継承する人気ピアノス。暖かい知性を醸し出すオリジナルが逸品。

01. Psalm
02. Dancing In The Dark
03. Snehvides Drem
04. So Far
05. Skygger
06. To B.R.
07. Soft
08. Don't Look Back
09. Les Parapluies De Cherbourg (I'll Wait For You)

Thomas Clausen (p) / Mads Vinding (b) / Alex Riel (ds)



Storyville/M&I
MYCJ-30511
¥2,200(税込)

2007/1/17
Release

トリオ・カマラ

トリオ・カマラ

60 年代サラヴァ・レーベルのジャズ・ボッサ名盤が遂に国内初 CD 化!

01. ビリンバウ / 02. ナウン・テン・ソルサウン
03. ビア / 04. ナッセンチ / 05. エストラダ・ド・ソウ
06. ウッパ・ネギーニョ / 07. 祈りのかたち
08. シェガンサ / 09. ノア・ノア
10. ムイト・ア・ヴォンタージ / 11. サンバ・ノーヴォ

フェルナンド・マルチンス (p) / エデソン・ロボ (b)
ネウソン・セーハ・デ・カストロ (ds)



OMAGATOKI
OMCJ-1163
¥2,100(税込)

2007/1/24
Release

stories

Black Gold Massive

UK ソウル・アシッドジャズを受け継ぐ、アーバンで爽やかなサウンドを聞かせてくれるのは UK 出身のユニット、ブラックゴールド・マッシブ

01. Just Make A Move (and be yourself)
02. Cast No Shadow / 03. Don't Give Up Now
04. Call Me Anytime / 05. When Did You Go
06. Set Me Free (featuring Swamburger)
07. Let It Flow (Sausalito Calling) / 08. I Do
09. Introduce Me To Love / 10. Sometimes it Snows In April
11. Don't Give Up Now (Piano Version)
12. Don't Give Up Now (urban soul mix) ※
13. Set Me Free (D>TOUR VS CHRIS 'BLACKGOLD' 84 R>WORK)

※ 国内盤限定ボーナストラック



インパートメント
SWIP-7501
¥2,300(税込)

2007/1/19
Release

It's only セイ小(グッ)

〜ザ・ベスト・オブ・登川誠仁 1975-2004〜

登川誠仁

沖縄のおじいと言えばこの人! 沖縄のジミ・ヘンドリクスとも形容される。沖縄民謡界を代表するセイ小、75 歳を祝う初めてのベスト!

01. 緑の沖縄 (with ソウル・フラワー・ユニオン) / 02. 忠孝の歌 (泡盛『忠孝』C M 曲) / 03. 嘉手久 (with 嘉手久林昌) / 04. アツチャメ小 (初 C D 化音源) / 05. ベストバキンマ (with 照屋林助) / 06. 安里屋ユンタ / 07. スーキカンナー (with 知名定男) / 08. ナークニー / 09. 富原ナークニー (富吉音) 〜はんだ原 / 10. 薄くせ口説 / 11. 白雲節 (映画『ホテル・ハイビスカス』エンディングテーマ) / 12. 戦後の嘆き / 13. 油断しな (2001 年 3 月 30 日沖縄市でのライブ音源) / 14. 石川かそえ唄 (2001 年 3 月 30 日沖縄市でのライブ音源) / 15. 軍歌たべたいなあ (露宮の歌) / 16. じいちゃん ばあちゃん / 17. カイサレー / 18. 新デンサー節 / 19. ヒヤミカチ節 / 20. 多幸山 (with 嘉手久林昌) / 21. ならいたい節 (with ソウル・フラワー・ユニオン)



リズベクトレコード
RES-118
¥3,000(税込)

2007/2/14
Release

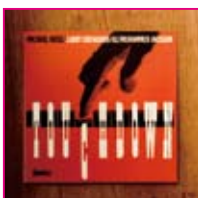
タッチダウン

マイケル・ヘイス

弾力性溢れるピアノと骨の髄まで響くベース、瞬時に反応するドラムスが織りなす歯切れの良いインナープレイ。圧倒的説得力を持った三位一体。

01. Touchdown / 02. Israel
03. Cheeky / 04. Rosebud
05. Five For Jan Johansson
06. Time For The Mohicans
07. Round Trip / 08. Blue Haze
09. Crane Dance

Michael Heise (p)
Larry Grenadier (b)
Ali Muhammed Jackson (ds)



Storyville/M&I
MYCJ-30512
¥2,200(税込)

2007/1/17
Release

ジャズパー 91

ハンク・ジョーンズ・トリオ

名手そろい踏み。生涯現役ハンク・ジョーンズ (p) が 1991 年にマッス・ヴィンディング (b)、アル・フォスター (ds) と繰り広げたピアノ・トリオの理想型。美しいほどの完成度の高さがここにある。

01. Pent Up House / 02. When Will I Know You?
03. Bloomdido / 04. Midnight Sun
05. Monk's Mood / 06. Quintessence
07. Bemsha Swing / 08. Up Jumped Spring
09. Bags' Groove / 10. Four

Hank Jones (p)
Mads Vinding (b)
Al Foster (ds)



Storyville/M&I
MYCJ-30513
¥2,200(税込)

2007/1/17
Release

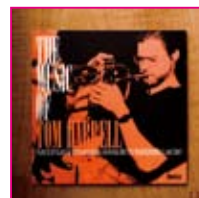
ミュージック・オブ・トム・ハレル

クラウス・スオンサーリ

スオンサーリ (ds) が、盟友の鬼オトム・ハレル (tp) に捧げたアルバム。最高潮のニールス・ランドキー (p)、アグレッシブな N.Ø. ベデルセン (b) と共にハレルの楽曲を敬愛こめて演奏した。オスローのレインボウ・スタジオにおける高品質サウンドも魅力。

01. Journey To The Centre / 02. Buffalo Wings
03. Songflower / 04. Terrestriis
05. Water's Edge / 06. Bell
07. Bright / 08. Serenity
09. Camera In A Bag

Klaus Suonsaari (ds)
Niels-Henning Ørsted Pedersen (b)
Nils Lan Doky (p)



Storyville/M&I
MYCJ-30515
¥2,200(税込)

2007/1/17
Release

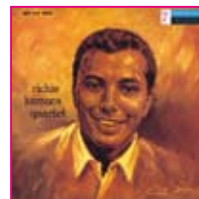
リッチー・カミュカ・カルテット

リッチー・カミュカ

ウエスト・コースト・シーンを代表するテナー奏者、リッチー・カミュカの人気アルバムであるとともに MODE を代表する一枚。カール・パーキンス、リロイ・ヴィネガー、など生粋のウエスト・コースター達と熟演を繰り広げるワン・ホーン・カルテットの名作。

01. ジャスト・フレンズ / 02. レイン・ドレイン
03. クロエ / 04. アーリー・バード
05. ネヴァーザレス / 06. マイウワン・アンド・オンリー・ラヴ
07. ファイアー・ワン / 08. チェロキー

リッチー・カミュカ (ts) / カール・パーキンス (p)
リロイ・ヴィネガー (b) / スタン・リービー (ds)



MODE
MZCS-1108
¥2,400(税込)

2006/12/22
Release

ペッパー・アダムス・クインテット

ペッパー・アダムス

ジェリー・マリガンと並ぶ人気バリトン・サクソフ・プレイヤー、ペッパー・アダムスの記念すべき初リーダー作。若さ溢れる力強いプレイとウエスト・コースト風のライトでハード・バップ感溢れる一枚。

01. アンフォゲッタブル
02. ビーズと酸輪
03. フレディー・フルー
04. マイ・ワン・アンド・オンリー・ラヴ
05. ムエジン

ペッパー・アダムス (bs) / スチュ・ウィリアムソン (tp)
カール・パーキンス (p) / マーティ・ペイチ (p)
リロイ・ヴィネガー (b) / メル・ルイス (ds)



MODE
MZCS-1110
¥2,400(税込)

2006/12/22
Release

アット・ザ・ブリューハウス

ケニー・ドリユー・トリオ

ピアノ・トリオ・ブームのきっかけを作った、ケニー・ドリユーのハード・バップ・ブりが伺える貴重なライブ・アルバム。3 人の縦横無尽な展開の中でドライブのきいたケニーの '熱い' ピアノが楽しめる。

01. In Your Own Sweet Way
02. It Might As Well Be Spring
03. Hush-A-Bye
04. Bluesology
05. It Could Happen To You
06. You Don't Know What Love Is
07. All Blues

Kenny Drew (p)
Niels-Henning Ørsted Pedersen (b)
Alvin Queen (ds)



Storyville/M&I
MYCJ-30514
¥2,200(税込)

2007/1/17
Release

ノー・リグレッツ

岡安芳明

円熟期に差し掛かった岡安芳明の新たな音楽的宣言でもあるゴージャスな新作! 自己の内面に鳴り響くサウンドを、一切の妥協を排し余すところなく表現しきった快作!!

01. Stuffy / 02. Time For Relax / 03. The Hustler
04. Blues For Sugar Ray / 05. It's Now Or Never
06. Mood Indigo / 07. Sharon / 08. Savanna
09. Groove Area / 10. How About You

岡安 芳明 (G) / 香川 裕史 (B)
高橋 幹夫 (Ds) / 宇多 慶記 (P)
岡 淳 (Ts) / 片岡 雄三 (Tb)
横山 達治 (Per)



M&I
MYCJ-30408
¥3,000(税込)

2007/1/17
Release

ハービー・ハーバー・セクステット

ハービー・ハーバー

モダン・ジャズ・トロンボーンのソリストとしてウエスト・コーストで活躍した白人プレイヤー、ハービー・ハーバーの数少ないソロ・アルバム。マーティ・ペイチ、レッド・ミッチェル、メル・ルイスなど人気プレイヤーはじめ、無名のテナー奏者、ジェイ・コーレのプレイも光る 2 管アルバム。

01. ジャズ・チューン / 02. リトル・オーファン・アニー
03. クロエ / 04. レッツ・フォー・イン・ラヴ
05. スカラーク / 06. ロング・アゴー・アンド・フアー・アウェイ
07. ザッツ・フォー・ジュア

ハービー・ハーバー (tb) / ジェイ・コーレ (ts)
ハワード・ロバーツ (g) / マーティ・ペイチ (p)
レッド・ミッチェル (b) / フランキー・キャップ (ds)
メル・ルイス (ds)



MODE
MZCS-1109
¥2,400(税込)

2006/12/22
Release

ウォーン・マーシュ・カルテット

ウォーン・マーシュ

トリストアー派の優等生でありながらおおらかで心あたまるプレイで多くのジャズ・ファン的心を掴んだサクソフ・プレイヤー、ウォーン・マーシュの絶頂期のアルバム。スタンダード・ソングのテーマ・メロディを大切に彼の代表作。

01. ユー・アー・トゥー・ビューティフル
02. ニューヨークの恋
03. プレイ・デル・レイ
04. アド・リビド
05. エヴリシング・ハプンス・トゥ・ミー
06. イッツ・オールライト・ウィズ・ミー

ウォーン・マーシュ (ts) / ロニー・ボール (p)
レッド・ミッチェル (b) / スタン・リービー (ds)



MODE
MZCS-1111
¥2,400(税込)

2006/12/22
Release

ヴィクター・フェルドマン・オン・ヴァイブス

ヴィクター・フェルドマン

イギリスが生んだモダン・ジャズ・ヴァイヴのヴァーテオーゾ、ヴィクター・フェルドマンがモードに残した貴重なリーダー・アルバム。我国でも人気の高いコンテンポラリー盤と並ぶリラックスした好盤。

01. フィディアス
02. スウィーズ・ミー
03. スウィート・アンド・ラヴリー
04. ベース・リフレックス
05. チャート・オブ・マイ・ハート
06. ウィルバース・チューン
07. イヴニング・イン・パリ

ヴィクター・フェルドマン (vib) / フランク・ロソリーノ (tb)
ハロルド・ランド (ts) / カール・パーキンス (p)
リロイ・ウイネガー (b) / スタン・リービー (ds)

バーニー・ニーロウ・トリオ

バーニー・ニーロウ

後年ピーター・ネロと名乗り、イージー・リスニングの世界に身を投じ一世を風靡したバーニー・ニーロウの貴重なジャズ・ピアノ・トリオ・アルバム。幼少の頃からクラシック音楽を学びコンサート・ピアニストを目指していた彼がアート・テイタムとの出会いからジャズに目覚め、そして創り上げたクラシックとジャズが見事に調和した隠れ名盤。

01. スクラッチ・マイ・バック / 02. 木の葉の子守唄
03. 春の如く / 04. アワー・ラヴィズ・ヒア・トゥ・ステイ
05. レッズ・ロンプ / 06. ゼア・ウィル・ネヴァー・ビー・アナザー・ユ / 07. ラヴ・フォー・セール
08. ホワット・イズ・ディス・シング・コールド・ラヴ
09. ハウ・アバウト・ユー

バーニー・ニーロウ (p) / マックス・ウエイン (b)
ディック・ステイン (ds)

SOULS LIKE MINE

ALTON MILLER

オリジナルデトロイトアーティスト随一の正当派ディープハウスオリジネーター、アルトン・ミラーが4年ぶりに待望のニューアルバム "Soul Like Mine" をリリース!

01. Between The Middle / 02. Possibilities Featuring Lady Linn
 03. Souls Like Mine ++ / 04. Don't Close Your Eyes Featuring Angelique / 05. Choose To Believe Featuring Sky / 06. Knowledge Of the Pigmies / 07. Long Time Comin' Featuring Nonie / 08. Find A Way ++ / 09. Time Is On Our Side ++ / 10. Malaku / 11. Beautiful Brown People
 - ++ Vocalist By Alton Miller
- BONUS TRACKS FOR JAPANESE EDITION
*12. Possibilities (Little Big Bee Remix)
*13. Time Is On Our Side (DJ Nori Remix)

渋谷

渋谷知らズ

渋谷史上初 DSD Recording "SACD HYBRID 渋谷" 登場! 生気躍動する音、美しい「たもの渋谷」文学。"世界を股にはさんで"躍進する「渋谷」のJazz、Rock、Popsの決定版! 世界でも稀な驚愕のダイナミック・サウンドが登場!!

01. Fight on the corner
02. 柳風
03. a song for One
04. Dust song
05. 有限会社中嶋材木店
06. P-Chan ~ Rearrange ~
07. We are a Fisherman Band
08. a theme for Inuhime

マーティ・ペイチ・トリオ

マーティ・ペイチ

アート・ベッパーとの共演で知られる名アレンジャー、マーティ・ペイチが、ピアニストとしての力量を世に知らしめた代表作が待望の紙ジャケ化! サポートにウエスト・コーストを代表するプレイヤー、レッド・ミッチェルとメル・ルイスを従えた人気アルバム。ピアノ・トリオ・ファンやウエストコースト・ジャズ・ファンには堪らない一枚。

01. アイ・ハドント・エニワン・ティル・ユー
02. ザ・ファクツ・アバウト・マックス
03. ダスク・ライト / 04. ザ・ニュー・ソフ・シュー
05. ア・ダンディ・ライン / 06. エル・ドランド・ブルース
07. ホワッツ・ニユー
08. バイ・ザ・リヴァー・セイント・マリー

マーティ・ペイチ (p) / レッド・ミッチェル (b)
メル・ルイス (ds)

ジョアン・グラウアー・トリオ

ジョアン・グラウアー

ホレス・シルバーやハンブトン・ホーズに強く影響された幻の美人ピアニスト、ジョアン・グラウアーの稀少なリーダー・アルバム。その美貌を生かした肖像画によるアート・ワークと女性らしい端正なピアノ・タッチから生み出されたフレッシュなサウンドなどでピアノ・トリオ・ファン必携のアルバム。

01. ムード・フォー・モード / 02. ジョーンズ嬢に会ったかい
03. インヴィテション
04. ハッピー・イズ・ザ・シープハーダー
05. 四月の想い出 / 06. ダンシング・ナイトリー
07. アイム・グラッド・ゼア・イズ・ユー
08. ザ・ソング・イズ・ユー

ジョアン・グラウアー (p) / バディ・クラーク (b)
メル・ルイス (ds)

SELECTED WORKS

ALTON MILLER

最新作 "SOULS LIKE MINE" と同時発売される待望のベスト版 "SELECTEDWORKS" !!! 90年代以降デトロイトの数々の名門レーベルから名作シングル作品を数多くリリースしたデトロイトディープハウスシーンを代表するクリエイター/ヴォーカリスト、アルトン・ミラーの足跡をコンパイルしたコンピレーション作品!

01. A Minor "Simple Pleasures" From Muse Recordings July 2002 / 02. Miller/Scott Project "It's Gonna Be Alright" From KMS Records in 1994 / 03. Aphrodisiac "Dusk" From Serious Grooves in 1993 / 04. Alton Miller project "Been There" From Instant Grooves in 2001 / 05. Alton Miller "Clouds Are Gone" From Deeper Soul recordings 2005 / 06. Alton Miller "Shine On Me" From Mahagoni Music/Peacefrog 2002/2003 / 07. Alton Miller "Paradise" From Track Mode Records in 2001 / 08. Alton Miller "Exstasoul" From Planet E in 1999 / 09. Alton M. "Bliss" From M3 records 1997 / 10. Alton Miller/Aphrodisiac "progressions" From Guidance recordings in 1998 / 11. Alton Miller "No Good Byes" From Peacefrog 2003 / 12. Alton Miller "Chasing Dreams" From Moods and Grooves 2002

渋谷初め

渋谷知らズ

06年、単独公演でこれまで最も動員数を記録した「渋谷初め」Shibuya O-EAST LIVE を8台にも及ぶカメラで捉え、渋谷の生き生きと動く様をリアルに且つダイナミックに描いた総合舞台芸術の決定版!

01. New Gate / 02. 脱走
03. 火男 / 04. 夫婦のテーマ
05. ひこーき / 06. 泥家族のうた
07. Naadam / 08. 本多工務店のテーマ
09. 仙頭 / 10. すてき

【VIDEO CLIP】
渚の男

Alloy

Salle Gaveau

鬼才鬼怒無月がアストルピアソラの音楽へのオマージュを表明しつつ、その意思を受け継ぎ現代に蘇らせるべく生まれた Salle Gaveau, 衝撃のファーストアルバム。

01. Alloy / 02. Parade / 03. Null set
04. Seven Steps to "Post Tango"
05. Tempered Elani / 06. Painted Red
07. Calcutta / 08. Arcos / 09. Crate

鬼怒無月 (g)
喜多直毅 (vln)
佐藤秀明 (acc)
鳥越啓介 (contrabass)
林正樹 (pf)

ジャンタル・ナイト

タカシタール

ラーガに基づき瑞々しいメロディーが次々とあふれ出す! ピンクシティ・ジャイブールの月夜を満たす東京発インディアン・チルアウト
By サラーム海上

01. Jantar Night (Prakash) / 02. Ki Kobor
03. Lal Haveli / 04. Alboo 65 / 05. Chandi
06. Jai Singh / 07. 3.5 Marg
08. Raat Ki Rani (Bou Pagla)
09. Malika / 10. Kailasleep
11. Bye Bye Puja / 12. Jantar Night (Rashi)
13. Raat Ki Rani (Salmon cooks U-zhaan edition)

タカシタール

ボディ&ソウル〜ジャズ&ボッサ・スタンダーズ

リヒア・ピロ

アルゼンチンの唄姫! 注目のスタンダード・アルバム!!

01. Body and Soul / 02. God Bless The Child
03. Waltz For Debby / 04. Don't Explain
05. Speak Low / 06. Chega de Saudade
07. Anos Dourados / 08. Message In A Bottle
09. Night And Day / 10. Cray Me A River
11. Aummmertime / 12. Angel Eyes

リヒア・ピロ

ストロード・ロード

関根敏行トリオ

コアなマニアにより発掘され噂となったが、限定200枚プレスという入手困難なLPのためピアノ・トリオファンの中で最もCD化が望まれていた作品。老舗ライヴハウス「サムタイム」(吉祥寺)の初代ハウス・ピアニスト、関根敏行がダイナミックに弾きまくる、1978年3月3日の奇跡。

01. STRODE ROAD
02. UP JUMP TO SPRING
03. LOVE FOR SALE
04. WILL YOU STILL BE MINE
05. DETOUR AHEAD
06. I COULD WRITE A BOOK
07. DEXTERITY

関根敏行 (p) / 成田敏 (b) / 黒崎隆 (ds)

オホス・ネグロス - 黒い瞳 -

シルビア・イリオンド

ネオ・フォルクローレ・ヴォーカリスト、シルビア・イリオンドが繰り広げる静寂で美しい世界が心地よく響きわたる神品。

01. ささやかな火の粉が
02. ジャ・メ・ボイ・ジェンド
03. 懐かしいサンティアゴ・デル・エステロ
04. 紫の花 / 05. グァンバーダ / 06. ナクナナ
07. 島の女 / 08. 私は孤児 / 09. アル・ランチョ・ホルビ
10. 大瓶から / 11. コブラス・シン・ルナ
12. 私の小さな村 / 13. つむじ風 / 14. トロ・ジャジュカ
15. 川の囁き、褐色の砂 / 16. セレナータ・デル900
17. 川縁の小屋 / 18. いずれ私も逝くから
19. ジャ・メ・ボイ

シルビア・イリオンド

ホテル・アルバニア

オバ・クバ

オバ・クバは1999年、南イタリアの、個人的で、独特のバロック芸術で埋め尽くされた街、レッツェで結成されました。そのイタリア+バルカンが生み出すサウンドはジプシー・プラスと同様に、ズンチャズンチャとした高速ブレスが随所に飛び出し、またジャジー! 中でも美しく力強いエネルギーを感じさせる女性ヴォーカル、Irene Lungoの声は圧巻であり、耳に心地よく響き渡ります。

01. Ligoniziana / 02. Kararia / 03. Allegria Di Naufrazi
04. Byala Stala / 05. Sotu Sotu / 06. Stelle Salenti
07. Litallea / 08. Liyepa Hayeria
09. Las Milie E Una Noche / 10. Parada
11. Chiari Di Luna / 12. Eklend 9 / 13. Muye Enye
14. Balkan Games / 15. Yake In Albania Hotel

オバ・クバ

ストップ・オーヴァー

佐々木秀人・関根敏行カルテット +1

若かりし頃のジャズ・ジャイアンツ達を彷彿させる、ガッツに溢れる演奏に胸を打たれずにはいられない。忘れかけているジャズ本流のありようというものを思い出させてくれる原点回帰の1枚。

01. CAROLE'S GARDEN
02. SOULTRANE
03. TURQUOISE TWICE
04. LITTLE B'S POEM
05. STOP OVER

佐々木秀人 (tp) / 渡辺典保 (as) / 関根敏行 (p)
成田敏 (b) / 黒崎隆 (ds)

Band collected with groove magnetism

playa

グループ磁気によって集められたバンド・・・LIVEの雰囲気や元初の完全バンドレコーディングに臨んだベスト・アルバム!! MIX TAPE「ROUTINE JAZZ」や MIX CD「PREMIUMCUTS」収録のヒット・ナンバー「NEW MORNING」や「I LIKE IT」の再演も収録。

01. Mondo Radio / 02. Mondo Trash
03. Welcome Happiness / 04. Rainbow Storm
05. Beautiful Boy / 06. New Morning / 07. New Dayz
08. Problem77 ~ Always ~ Still / 09. What Will Be True?
10. Sweet & Spicy / 11. I Like It / 12. Pretty Girl
13. Mondo Radio

KATOKUNNLEE (G,etc) / Yuichi Hokazono (Ds)
Nagata Norimasa (B) / Sugames Japon (Key)
Yoichi Izawa (Steel Pan) / Mie (Vo) / yuiave (Vo)

INFORMATION

春日クリスティ宏美

～ JAPAN TOUR 2007 ～

【日時】 2月22日(木)
【場所】 関内 APPLE TEL:045-641-3396
【出演】 デュオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、高嶋 宏 (Gt)
<http://blog.goo.ne.jp/pianobarapple>

【日時】 2月23日(金)
【場所】 代官山 Candy TEL:03-5428-3311
【出演】 カルテット：春日クリスティ宏美 (Pf)、安田 幸司 (Bs)
藤井 学 (Ds)、他未定
<http://music-candy.com/>

【日時】 2月24日(土)
【場所】 有楽町 季立 TEL:03-3575-0315
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、安田 幸司 (Bs)
ジーン重村 (Ds)
http://homepage2.nifty.com/jazzbar_kiri/

【日時】 2月26日(月)
【場所】 関内 BarBarBar TEL:045-662-0493
【出演】 カルテット：春日クリスティ宏美 (Pf)、岡 淳 (Sax)
早川 哲也 (Bs)、藤井 学 (Ds)
<http://www.barbarbar.jp/>

【日時】 2月27日(火)
【場所】 吉祥寺 Strings TEL:0422-28-5035
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、早川 哲也 (Bs)
藤井 学 (Ds)
<http://www.jazz-strings.com/>

【日時】 2月28日(水)
【場所】 阿佐ヶ谷クラヴィーア TEL:03-3393-0418
【出演】 デュオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、増根哲也 (Bs)
<http://www.bekkoame.ne.jp/~h.yamakawa/>

【日時】 3月1日(木)
【場所】 鎌倉ダフネ TEL:0467-24-5169
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、加藤 真一 (Bs)
藤井 学 (Ds)
<http://daphne.cool.ne.jp/>

【日時】 3月2日(金)
【場所】 目黒 Jay-J' s Cafe TEL:03-3491-3420
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、加藤 真一 (Bs)
藤井 学 (Ds)
<http://www.jay-js.jp/>

【日時】 3月3日(土)
【場所】 立川ジェシー・ジェイムス TEL:042-525-7188
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、早川 哲也 (Bs)
橋本 学 (Ds)
<http://homepage2.nifty.com/jessejames-tachikawa/>

【日時】 3月4日(日)
【場所】 西新井カフェ・クレール TEL:03-3880-6645
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、上村 信 (Bs)
藤井 学 (Ds)
<http://www.adachi.ne.jp/users/clair/>

【日時】 3月5日(月)
【場所】 吉祥寺 SOMETIME TEL:0422-21-6336
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、上村 信 (Bs)
藤井 学 (Ds)
<http://www.sometime.co.jp/sometime/>

【日時】 3月6日(火)
【場所】 横浜ジャズスポット・ドルフィー TEL:045-261-4542
【出演】 トリオ：春日クリスティ宏美 (Pf)、佐々木 惇二 (Bs)
藤井 学 (Ds)
<http://www.dolphy-jazzspot.com/>

お寺で倍音浴！

アルケミー・クリスタルボウルの第一人者、牧野持侍(じゅん)の奏でる
美しい響きの体験！

【日時】 2月24日(土) 開場 13:30 / 開演 14:00 / 終演 16:00 予定
【場所】 池上・實相寺
<http://www.ikegamijissouji.jp/index.htm>

【料金】 ¥4,200
【聴かせポイント】 TEL:03-3755-0073
<http://www.pinpoint.ne.jp/event/>

早坂紗知

【日時】 1月27日(土)
【場所】 池袋西口バレルハウス TEL:03-3986-2871
【出演】 早坂紗知、カルメン・マキ (vo)、永田利樹 (b)

【日時】 2月3日(土)
【場所】 埼玉県上尾市 DON
【出演】 Minga/ 早坂紗知、永田利樹 (b)、新澤健一郎 (p)
コスマス・カビッツァ (per)

【日時】 2月4日(日) 昼の部 (14:00~17:00)
【場所】 吉祥寺サムタイム TEL:0422-21-6336
【出演】 早坂紗知、新澤健一郎 (key)、永田利樹 (b)

【日時】 2月7日(水)
【場所】 野毛 Dolphy TEL:045-261-4542
【出演】 minga/ 早坂紗知、新澤健一郎 (key)、永田利樹 (b)、
コスマス・カビッツァ (per)

【日時】 2月11日(日)
【場所】 吉祥寺 ChaCha House TEL:0422-20-6730
【出演】 Minga Senegal/ 早坂紗知、永田利樹 (b)、
新澤健一郎 (key)、コスマス・カビッツァ (per)、
ワガン・ンジャエ・ローズ (per)、
アブドウ・バイファル (dance,vo,djembe)

【日時】 2月24日(土)
【場所】 六本木アルフィー TEL:03-3479-2037
【出演】 minga/ 早坂紗知、新澤健一郎 (key)、小畑和彦 (g)、
永田利樹 (b)、コスマス・カビッツァ (per)

パースデイコンサート vol.21

【日時】 2月26日(月)
【場所】 江古田パディ TEL:03-3953-1152
【料金】 前売：¥3800 当日：¥4200 (1drink 付)
スターラップクラブ会員予約：¥3500
【出演】 早坂紗知、山下洋輔 (p)、つの犬 (dr)、永田利樹 (b)、
コスマス・カビッツァ (per)、大儀見元 (per)
ゲスト：カルメン・マキ (vo)

ジェシ・ヴァン・ルーラー

ジェシ・ヴァン・ルーラー 2年ぶりの来日決定！

【日時】 2月9日(金)
【場所】 モーション・ブルー・ヨコハマ TEL:045-226-1919

【日時】 2月10日(土)・2月11日(日)
【場所】 東京丸の内 コットン・クラブ TEL:03-3215-1515

【日時】 2月12日(月)
【場所】 大阪 ジャズオントップ TEL:06-6341-0147

来日メンバー：
ジェシ・ヴァン・ルーラー (g)
ペレルツ・ヴァン・デン・ブリנק (p)



シャルル・アズナブール

～“ラ・ボエムール最終章”
ありがとう、さよなら日本公演

■大阪公演■

【日時】 2月3日(土) open 18:00 / start 19:00
2月4日(日) open 15:00 / start 16:00
【場所】 大阪フェスティバルホール
【料金】 S : ¥18,000 A : ¥13,000 プレミア : ¥23,000 (全席指定 / 税込)
【聴かせポイント】 キョードーチケットセンター TEL:06-6233-8888

■福岡公演■

【日時】 2月7日(水) open 18:00 / start 19:00
【場所】 福岡シンフォニーホール
【料金】 S : ¥17,000 A : ¥13,000 プレミア : ¥20,000 (全席指定 / 税込)
【聴かせポイント】 キョードー西日本 TEL:092-714-0159

■東京公演■

【日時】 2月9日(金) open 18:00 / start 19:00
2月10日(土) open 15:00 / start 16:00
2月11日(日) open 15:00 / start 16:00
【場所】 東京国際フォーラム ホールA
【料金】 S : ¥20,000 A : ¥15,000 プレミア : ¥25,000 (全席指定 / 税込)
【聴かせポイント】 チケットスペース TEL:03-3234-9999

■愛知公演■

【日時】 2月13日(火) open 18:00 / start 19:00
【場所】 愛知県芸術劇場 大ホール
【料金】 S : ¥17,000 A : ¥13,000 プレミア : ¥20,000 (全席指定 / 税込)
【聴かせポイント】 サンデーフォークプロモーション TEL:052-320-9100

*プレミアム席は、アズナブールのサインを刺繍したシルク製ハンカチ付となります。
*未就学児童は入場できません

喜多直毅

【日時】 1月22日(月)
【場所】 吉祥寺 MANDA-LA2 TEL:0422-42-1579
【出演】 Salle Gaveau :
喜多直毅 (vln)、鬼怒無月 (gt)、佐藤芳明 (acc) 林正樹 (pf)、
鳥越啓介 (bass)
<http://www.mandala.gr.jp/>

【日時】 1月27日(土)
【場所】 荻窪 ビストロサンジャック TEL:03-3393-2639
【出演】 Alah Bundoki : 今井龍一 (oud) 喜多直毅 (vln)
Orso Bruno : テディ熊谷 (flute) 檜山学 (acc)
<http://pomkn.cocolog-nifty.com/kikaku/>

【日時】 1月30日(火)
【場所】 大泉学園 in F TEL:03-3393-2639
【出演】 喜多直毅 (vln)、吉見征樹 (tabla)
<http://homepage2.nifty.com/in-f/>

【日時】 1月31日(水)
【場所】 日暮里 Bar Porto TEL:03-3891-6444
【出演】 喜多直毅 (vln)、柴田奈緒 (vo,gt)
<http://www.geocities.jp/barporto/>

喜多直毅 (vln) バンドライブ

【日時】 3月13日(火)
【場所】 吉祥寺 STAR PINE'S CAFE TEL:0422-23-2251
【出演】 喜多直毅 (vln)、佐藤芳明 (acc)、鬼怒無月 (gt)
黒田京子 (pf)、吉野弘志 (bs)、芳垣安洋 (dr)
さがゆき (vo)
<http://www.mandala.gr.jp/spc.html>

六本木 Super Deluxe LIVE INFO TEL:03-5412-0515

Chris Mosdell and the Incendiary Orchestra

【日時】 1月23日(火) Open 19:00 / Start 20:00
【料金】 ¥1,000
【出演】 Chris Mosdell (poetry), Michiyo Yagi (koto), Edgar Kautzner (violin),
Andy Matsukami (Tabla), Rie Terada (Japanese rendition)

live FAR 9

【日時】 1月27日(土) Open 19:30 / Start 20:30
【料金】 前売：¥2,300 (ドリンク別) 当日：¥2,800 (ドリンク別)
【出演】 1st. セット：
藤乃家 舞 (Yamp Kolt, etc.)、カイロジ (voice)、
藤掛正隆 (dr. & Yamp Kolt spring)、
U-1 (Yamp Kolt spring)、よっしー (Yamp Kolt spring)、
タブラ・ダーアウラノイズス (ハーブ・整琴)、永戸鉄也 (ライヴ・コラージュ)
2nd. セット：
ピース・ビル (浅野忠信 / 岩井田道現 / 藤乃家舞 / 茶谷雅之 / 市村隼人)、岸本智也 (VJ)
DJ: ビヤ・マイク

commune disc presents Sound Room

【日時】 1月29日(月) Open 19:00 / Start 20:00
【料金】 ¥2,000 (21:30以降は ¥1,000)
【出演】 Phroq (electronics) + hofli (guitar) DUO、(<http://d.hatena.ne.jp/hofli/>)
Tokyo Kinba-ku : (有末剛 / 卯月妙子 / 沢田穠治 / 稲葉明徳)
DJ: クナツケ、Kojime、Paris-Pekin Records (虹金太郎)、Yasufumi Suzuki

スピルキヤ2 ～大地の鼓動を SOIL POWER !!! ～

【日時】 2月10日(土) Open 17:30 / Start 18:00
【料金】 前売：¥2,500 当日：¥3,000 (ドリンク別)
【出演】 大ヒカ和田山脈 Big Mountain PIKA WADA (ヒカチュウ vs 和田晋侍)、
増子真二 + watch Man (ds: ex. Melt Banana)、
煙巻ヨーコ with 迎祐輔 (ds) & 石原富士夫 (sax)、オニ
<http://blog.goo.ne.jp/spilkiya-usagi>

LIVE INFOMATION

【日時】 1月25日(木) open 18:00 / start 19:30
【場所】 名古屋 K.D.Japon TEL:052-251-0324
【料金】 ¥2,000 + order
【出演】 sedge:
臼井康浩 (g)、鈴木茂流 (永久持続音)、小野良子 (as)
照喜名俊典 (eu.tb) + かみむら泰一 (sax)、鳥山タケ (ds)
Unorthodox Jazz Quartet :
鈴木茂流 (永久持続音)、水野啓 (g)、照喜名俊典 (eu.tb)
+ かみむら泰一 (sax) 鳥山タケ (ds)
<http://www2.odn.ne.jp/kdjapon/>

【日時】 1月30日(火) open 18:00 / start 19:00
【場所】 名古屋 Tokuzo TEL:052-733-3709
【料金】 前売：¥2,500 当日：¥2,800
【出演】 ONNYK (sax)、中谷達也 (per)、河崎純 (b) Trio
臼井康浩 (g) 近藤久峰 (ds) Duo
Kei (g) 平尾義之 (sax) Duo
<http://www.tokuzo.com>

【日時】 1月31日(水) open 18:00 / start 19:30
【場所】 名古屋なんや TEL:052-762-9289
【料金】 ¥2,000 + order
【出演】 佐藤行衛 (g) from 韓国、臼井康浩 (g)
鈴木茂流 (永久持続音) 長坂均 (tp)、小野良子 (as)
<http://www.nanyagokiso.com/>

【日時】 2月3日(土) start 20:00
【場所】 高円寺 GOODMAN
【料金】 ¥1,200 + drink
【出演】 臼井康浩 (g) 鈴木茂流 (永久持続音)
<http://apaches.hp.infoseek.co.jp/goodman/>

【日時】 2月16日(金) open 18:00 / start 19:30
【場所】 名古屋なんや TEL:052-762-9289
【料金】 ¥2,000 + order
【出演】 高岡大祐 (tuba)、照喜名俊典 (tb.eu)、臼井康浩 (g)
石渡岬 (tp)
<http://www.nanyagokiso.com/>

RockTodayって… アンタ、誰!?

text by 末次安里

1月8日放送のテレビ東京『ロックフジヤマ』を観ながら、今年も（嗚呼、“ジャズ界のマーティ・フリードマン”は登場しないもんだろうか…）（一回のお試しでもいいから『ジャズフジヤマ』を誰か企画してくれないものだろうか…）と切に想った。近田春夫のポストは菊地成孔が埋めてくれそうだが（と書いて

も本人は気を悪くしないだろう）、「朋ちゃんの〈I'm proud〉なんか立派にロックじゃん!」と実演で立証してくれるマーティ的なキャラがジャズ界には不在だし、斬新な切り口どころかジャズ番組の企画そのものがラテ界の水面下で密かに進行されているなんていう噂もトンと聞かない。Woo、ロックフジヤマ!!

新春明けのワイドショーをボケッと観ていたら、恒例のハワイ入りした内田裕也が「矢沢には負けないぜ!!」と常套句で吠えていた。1月7日放送のフジテレビ『NEW YEAR ROCK FESTIVAL #34』もなんやかんや言いながら結局、今年もながら鑑賞したので御屠蘇期間の気分はさながらRockToday（なんちゃって）編集長である（笑）。が、RockTodayも創れないか、というヨコシマな考えは満ざら胸中にないでもなく、昨年ヨコハマの名門ライヴハウス『Friday』でリボルバーのBEATLES NIGHTを御機嫌初体験した夜は結構マジでその可能性を脳裡で弾いてみたりした。しかもこれを書きながら現在、背後から流れているのはジョニー大倉の新譜『JOHNNY IN BLUE』のサンプル音源なんだからアンタ、誰!? じつは初出社した昨日、某喫茶店である方々と談笑していた際に「いや、あのさあ、RockToday ちゅ〜のがあっても面白いと思うんだよねえ（笑）」とか軽口をカマしたら、暫し中空を眺めていた一人の先輩から「としたら、もしね、JazzToday がその要素を取り込むとして良いネーミングは何かあるの?」と結構マジで訊かれたから多少



慌てて、その場は「う〜ん…その名案が浮かばないんだよなあ」と（笑）付きで誤魔化した次第。

でも彼らと別れ、越年の清算も済ませて提出後、最寄り駅の書店で「戦後マンガ史論をどう書くか」の特集を組んでいる『水声通信』14号を購入し、メトロに揺られながら（本来の購入目的である）追悼●小島信夫の各文章を読んでも心のどこかに先ほどの先輩の言葉が引っかかっていたのか、JazzとRockを合体させた（「ジャズロック」ではない）巧い呼称を脳髓の路地裏でちらほらと探っているじぶんがいたりして。まあ、それはそれ、本気で熟考しているわけでも、誰かから企画書の提出を待たれている案件でもないから、小島追悼企画のあとは巻頭の新連載に戻り、『彼自身によるロラン・バルト』よりの引用であると説明される「書き出しを見つかったり、それを書いたりするのが好きな彼は、この快

楽を増やそうと試みる。彼が断章を書くのはそのためなのだ。」という断章に頷きながら、乗換駅の通路にあるCASAに誘われて麦酒と枝豆を頼んだのだが、「Jazz + RockでJack、JackToday かあ!？」という何とも情けないオチが浮上してきたのは豆が尽きた時だった。我ながら木に登りたい気分である。

というオバカな夜が明けての翌日がまさに本日なのだが、じつは大晦日〜三が日を費やしての毎春恒例書斎整理の際に不覚にもぎっくり腰をやってしまい、にも係らずいったん入稿作業や執筆を始めてしまうと一時間に一回の休憩もついぞ忘れて没頭し、これ以上腰に悪い仕打ちはない同一姿勢で打ち続けてしまうものだから、今も痛いなのって箱根駅伝をひた走る苦戦走者の表情にわが身を重ねたりしつつも後半を書き切ろう…。

そんな腰痛編集者がこの越年期間、文字どおり肌身離さず用を足すにも湯船に浸かる際もメトロの対面に好みの異性が座ろうが一切わき目もふらず（一瞥に留め）、開いては閉じ閉じては開いて耽読し、カノジョの著作以外は何も読まなかったという作家が目下、じぶんの「読む恋人」である川上弘美の小説で

ありエッセイ集なんである。じつは昨年の後半から突如、近年はトンと御無沙汰気味の現代小説畑に踏み込んでこれまで未読の作家群をとりあえず一冊ずつ読もうかと文庫を買ったのだが、前号でも触れた堀江敏幸→星野智幸以降、保坂和志の『この人の闕（いき）』を読破して（いやあ、評判の作家ばかりとあって皆さん、巧いなあ…）とひたすら関心。ここで女性作家を挟もうと川上弘美の芥川賞受賞作『蛇を踏む』に臨んだらもう、出だしの「ミドリ公園に行く途中の藪で、蛇を踏んでしまった。」からすると引き摺り込まれて、これまた度々引用される個所である「蛇は柔らかく、踏んでも踏んでもきりがない感じだった。」的な弘美世界の仕掛けにすぐわれ、保坂和志→川上弘美→川上弘美→川上弘美→川上…が今日の今日まで連なって、どうやら現行の全著作を読破するまでは抜け道は見い出せそうにない勢い。本当は時たま、これまた年末に購入した高柳昌行著『汎音楽論集』につかのまの浮気を試みたりもしているのだが、読破は次の入稿時まではかかりそうなので今回は表紙を載せない。そんなJazz 離れの正月を過ごしているじぶんの身内

にはどこか後ろめたさ(?) もあったのか、川上読みの背後では高柳関連のCDが何枚も響いていたのだから…いざ選ろうか、音楽の森へ。

銀巴里セッション 高柳 昌行と新世紀音楽研究所



01. グリーンズリブス
02. ナルデイス
03. イフ・アイ・ワー・ア・ベル
04. オブストラクション

three blind mice
MHCP-10023 ¥2,415(税込)
2006/11/22 RELEASE

JOHNNY IN BLUE ジョニー大倉

待望の30周年記念アルバム第二弾!!
ライブ映像「二人だけ」・「HEY MAMA
ROCK & ROLL」DVD 特典付き!!



01. BABY BLUE / 02. Please Talk To Me
03. Do You / 04. Sexy Paradise
05. 君におなさわぎ / 06. 恋の苦手な Teddy Boy
07. Wonderful You / 08. 愛が淋しい
09. ロンサム ジョニー ボーイ
10. Good-bye Last Song
11. You Knock Me Down / 12. 想い出のアニー

Guest Artist : SAX/ CLARENCE CLEMONS

Webkoo
IWKCL-3030 ¥3,000(税込)
2007/1/24 RELEASE

JazzToday®

発行人：鯉沼利成 jazz today 34号
編集人：末次安里 表紙画：タジマヤスタカ
デザイン：Factory Jam (岡本義憲&三村洋一)

制作：jazz todayプロジェクト
〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7-402
専用電話：03-3746-8760 e-mail：sue@image.ocn.ne.jp

ブログ版 編集長日誌 公開中! <http://blog.goo.ne.jp/jazztoday/>



HANK JONES

JazzToday Special INTERVIEW

ハンク・ジョーンズに 会ったんだ!

連載第7回

ジョーンズ三兄弟

聞き手: JT (本誌編集長)

JT: 兄弟それぞれが選んだ楽器に、各人の性格が反映されているとは思いませんか?

HJ: ハハハ、なるほどね。楽器がそれぞれの個性を表わしているのでは、という言い方はもの凄く面白いと思うよ(笑)。ただ、実際に僕がピアノに進んだのは母の影響が凄く大きかったんだ。ピアノを選んでくれたのも母だし、「一生懸命練習するんだよ」と熱心に教えてくれたのも母だったからね。それこそ母はヨーロッパに留学させたいというくらいの想いを抱いてたと思うしね。でも、当時の情勢としてはなかなか渡航も難しく、費用も莫大という現実の前に儘ならなかったというわけさ。

JT: でも、御自身もピアノとの相性の良さを感じられたわけですよね。

HJ: 母の後押しがあって、私が自らピアノを選んだというよりも正直、ピアノが私を見つけてくれたという感じがあるんだな。で、サドに関しては父方の一番若い叔父がイル・ジョーンズというトランペット・プレイヤーだったので、彼に影響されたトコもあると思うね。実際にサドが一番最初に使ったトランペットは、その叔父がプレゼントしてくれたものなんだよ。

JT: ああ、そうなんですか。残るはドラムとエルヴィンの出遣いですが…。

HJ: エルヴィンに関してはもう小さい頃からパディ・リッチとジョー・ジョーンズがとっても好きだね。ずうっと聴いてたし、僕がJATPの仕事でクリーブランドとかに行くと、当時空軍に入っていたエルヴィンがそのコンサートには必ず来てね。上手く時間を見つけてはパディ・リッチに話しかけたりして(笑)。だから僕が彼に与えた影響と言ってもその程度の、ちょっとした交流の手伝いくらいでほとんど影響はないと思うんだ。弟たちは皆、それぞれの進む道を見つけていったからね。

JT: 似たような質問ですが、それぞれの創り出した音楽には性格の違いを感じられますか?

HJ: その後、それぞれがやっていた音楽という面での質問に関しては正直、ちょっと分からないな。ただ、本当に子供の頃の体験というか、家の中では常時音楽が流れていたし、自動ピアノがあって僕はそれに魅了されちゃって(笑)。人がいないのに鍵盤が動いて音を出すというのは凄いの。と。それでピアノに引き込まれたというもあるんだね。で、弟たちも多かれ少なかれ同じように想っていたとは今にして思うな。

JT: 原点は一緒だった、と。

HJ: そうだね。本当に家の中には何百枚とLPがあって、それこそブルースからビッグバンドまでいろいろあったんで。小さい、自分たちの住んでいる世界だけではなくて、世の中にはもっともっと広く、こういう他の世界もあるんだということをなんとなく気づいていた。それで自分たちの本当の嗜好に合うものをピックアップしていったという、そういう子供の頃の体験が全員に影響しているように思いますね。

JT: では、一人の兄から観たサドとエルヴィンの、性格の違いはどうですか?

HJ: それも正直に言うとね、兄の立場から「弟は…」云々と語ろうとすると同時にというか、むしろ二人とも小さい当時から「素晴らしい才能を秘めているミュージシャンである」という部分が凄く意識されたし…本当に彼らは素晴らしい才能を持っているな、というのを子供の頃から気づかせてくれたからね。

JT: 才能の最初の発見者、その一人でもあるわけですね。

HJ: サドに関しては皆さん、なかなか気づかれてはいないようで…本当に力のある素晴らしいトランベッターでね。自分のバンドでは他の人にソロを取らせるからあまり脚光を浴びなかったんだけど、本当にトランベッターとしても超一流だった。アレンジャーとしての才能は皆さんが御存知のとおりですが、じつは彼はニューヨークに出る前はコメディアンとかダンサーのための音楽のアレンジもやっていたコトがあってね。そうやってニューヨークに出てくる前からめきめき頭角を現わしてきたんですよ。

JT: 現在、ジョーンズ家の中から後継者が出てきそうな流れはありますか?

HJ: いや、残念ながら(笑)。実際に家族は何人もいるし、それこそ皆が音楽の道へ進んでもいいくらいの才能を持っているのに、最終的には誰も「音楽の道」を職業としては選んでいないんだよね。

JT: ああ、そうですか。

HJ: たとえば僕らは「ジョーンズ三兄弟」なんて言われ方をしてきたけれども、もう一人のポールという弟もピアノが凄く上手かった。なのに彼はピアニストになる道は選ばずに他の職業に就いたしね。彼の息子のポール Jr. もピアノの才能が凄くあるのに、最終的には高校で教師をしていたりとか。他にもベースをやっていたり、アルトをやっている甥っ子がいたりするんだけど皆、最終的にはべつ道を選んでいるというのが現実だね。だから今、音楽を職業にしているのはこの僕だけなんだよ(笑)。確かに「大変」といえば、大変な仕事ではあるし。次から次へと仕事で家を空けて、ちょっとした「ホームレス状態」じゃないけれども(笑)、うちにいないからね。そういう面が強いし、身近で見ていると大変そうだなというふうに思ったのかもしれないな。



Hank Jones | For My Father (JUST 209-2)
Recorded in New York City, 2004

【前号のお詫びと訂正】 33号の当連載中、「ロバート・ガンパリーニ」さんの表記が「ロバート」と誤植されていました。関係各位にお詫びする同時にここで一文字訂正させていただきます。(本誌編集部)